

## 第4章

### 日常生活圏域別地域分析



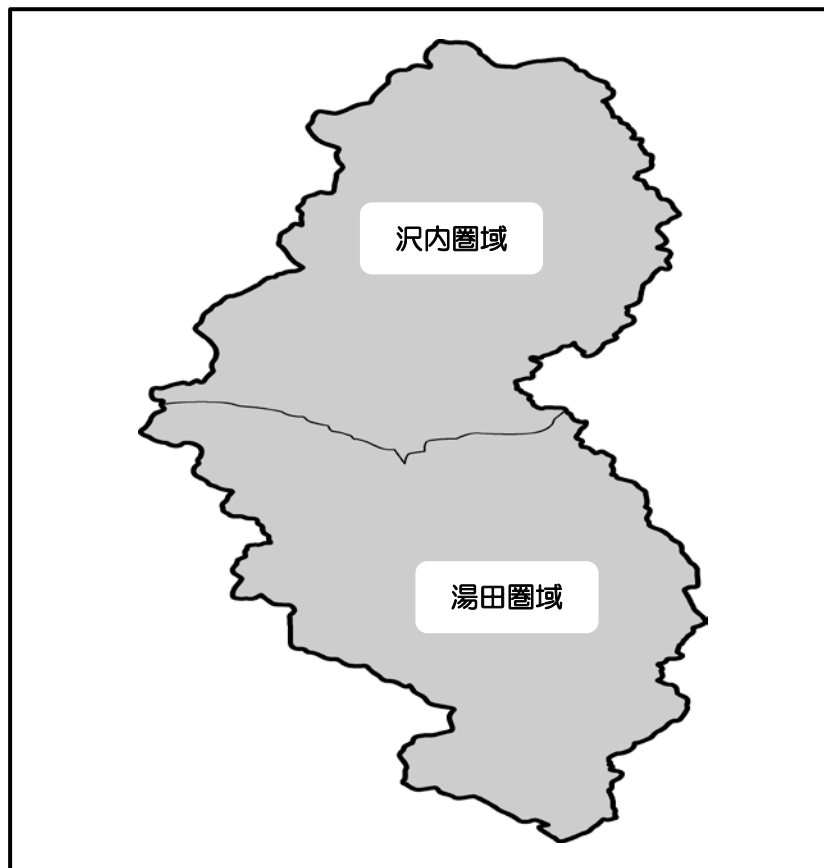
## 第4章 日常生活圏域別地域分析

第4章は調査結果から2つの圏域別に町全域と比較しながら、高齢者の健康自立度や生活実態、地域の活動やたすけあいの状況など、各圏域の地域特性を分析しました。

圏域名	総人口 (人)	高齢者人口 (人)	高齢化率 (%)	前期高齢者 (人)	後期高齢者 (人)	後期高齢者 比率(%)
町全域	6,076	2,765	45.5	994	1,771	64.1
湯田圏域	2,976	1,391	46.7	499	892	64.1
沢内圏域	3,100	1,374	44.3	495	879	64.0

圏域名	一般高齢者 (人)	要支援 認定者 (人)	要介護 認定者 (人)	認定率 (%)	重度認定者 (要介護3~5) (人)	重度認定者 認定率 (%)
町全域	2,185	128	452	21.0	236	8.5
湯田圏域	1,096	71	224	21.2	123	8.8
沢内圏域	1,089	57	228	20.7	113	8.2

※上記の数値は平成28年4月1日現在

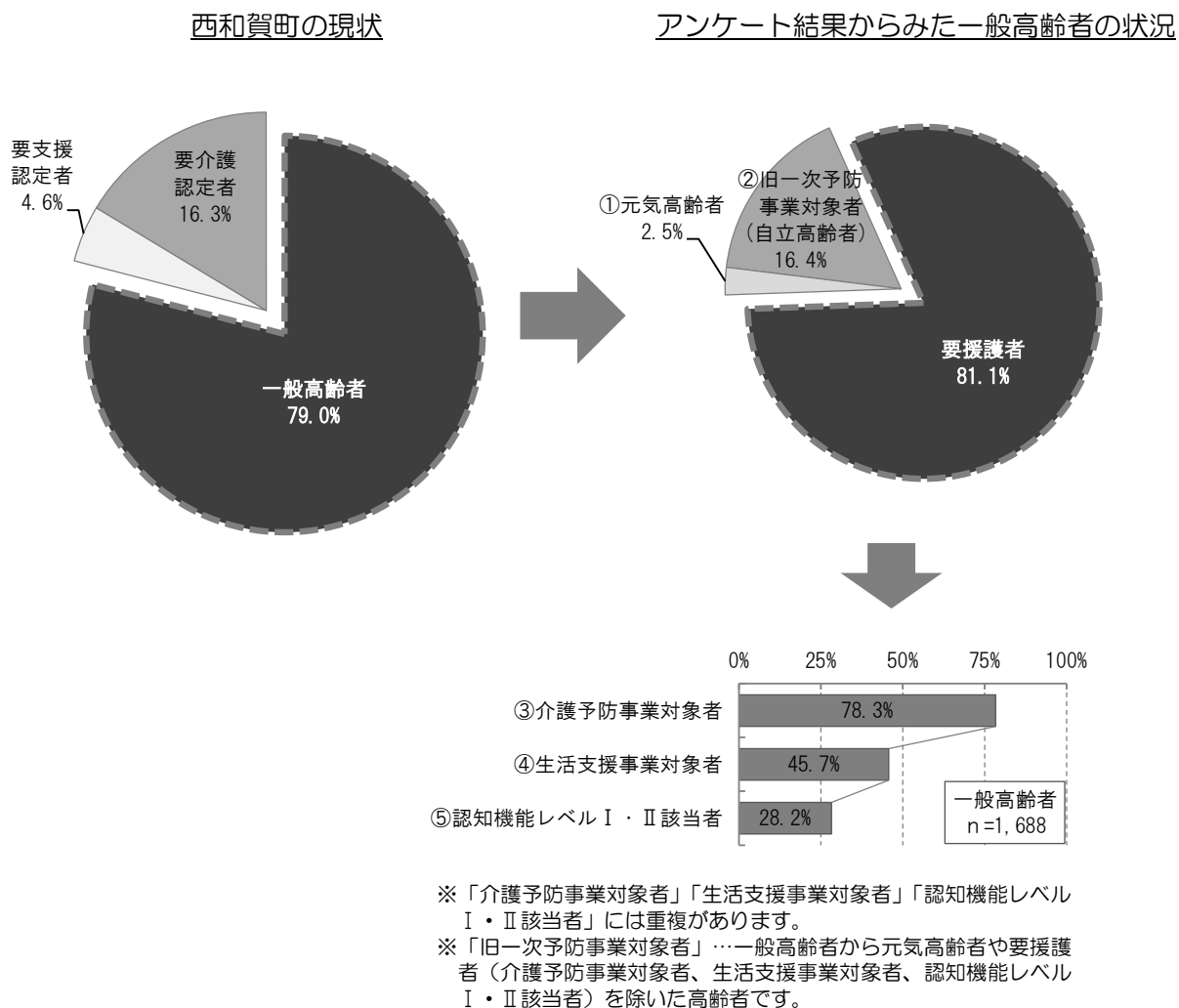


## 1 “5つの高齢者像”からみた地域分析

本町における平成28年4月1日現在の認定者数は580人（認定率21.0%）となり、認定者を除いた一般高齢者数は2,185人と高齢者人口の約8割となっています。

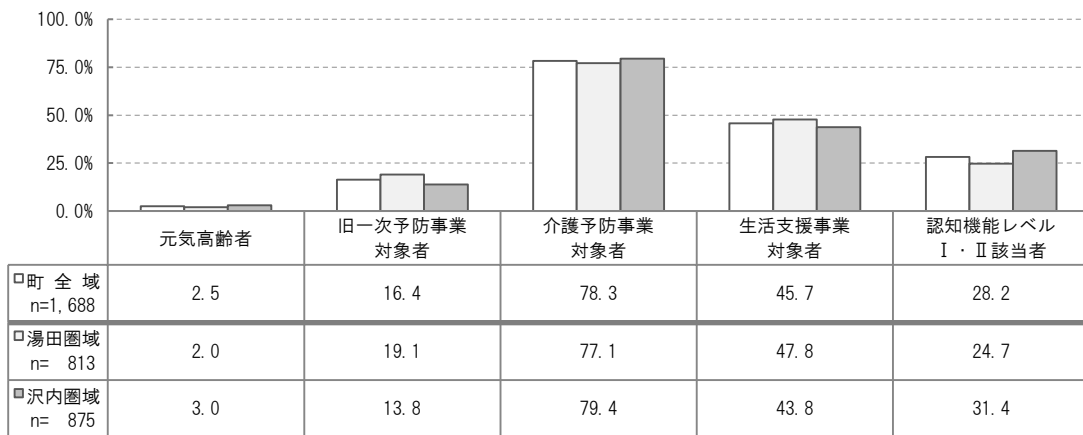
また、調査結果から高齢者像別に出現率をみると、要援護者は81.1%、旧一次予防事業対象者は16.4%、元気高齢者は2.5%となっています。

図 4.1 高齢者像別出現率



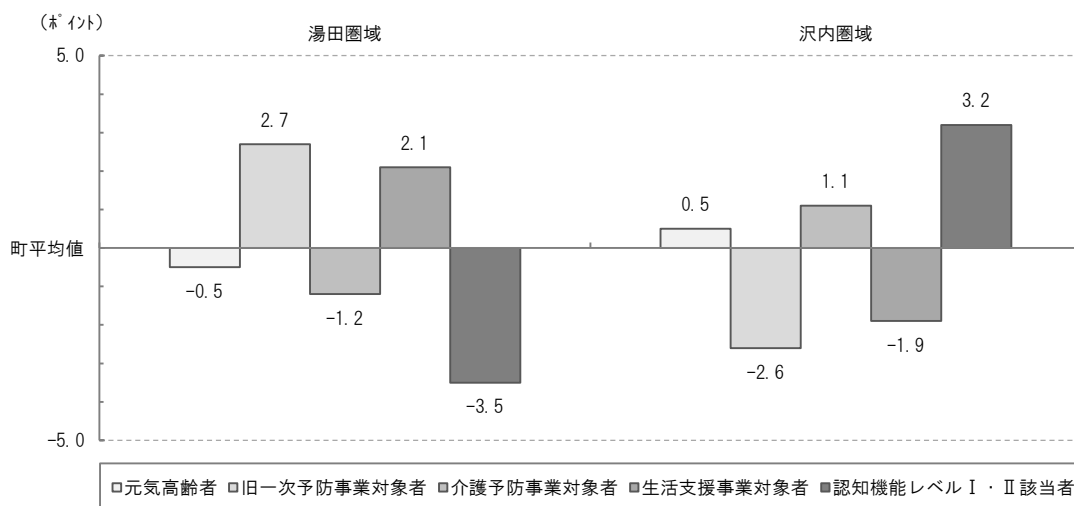
- 一般高齢者において5つの高齢者像別出現率の地域差をみると、元気高齢者では沢内圏域で町平均値より高く、湯田圏域で低くなっています。
- 旧一次予防事業対象者では湯田圏域で町平均値より高く、沢内圏域で低くなっています。
- 要援護者をみると、介護予防事業対象者・認知機能レベルⅠ・Ⅱ該当者では沢内圏域、生活支援事業対象者では湯田圏域で町平均値より高くなっています。

図 4.2 5つの高齢者像別出現率



※「旧一次予防事業対象者」…一般高齢者から元気高齢者や要援護者（介護予防事業対象者、生活支援事業対象者、認知機能レベルⅠ・Ⅱ該当者）を除いた高齢者です。

図 4.3 5つの高齢者像別出現率の地域差



※町全域の出現率を町平均値（0.0）とします。

## 2 介護予防・日常生活支援総合事業に関するニーズ

### (1) 介護予防事業対象者数の予測とニーズ算出

○一般高齢者において介護予防事業対象者の出現率の地域差をみると、沢内圏域で町平均値より高く、湯田圏域で低くなっています。

○要支援者では湯田圏域で町平均値より高く、沢内圏域で低くなっています。

図 4.4 介護予防事業対象者出現率

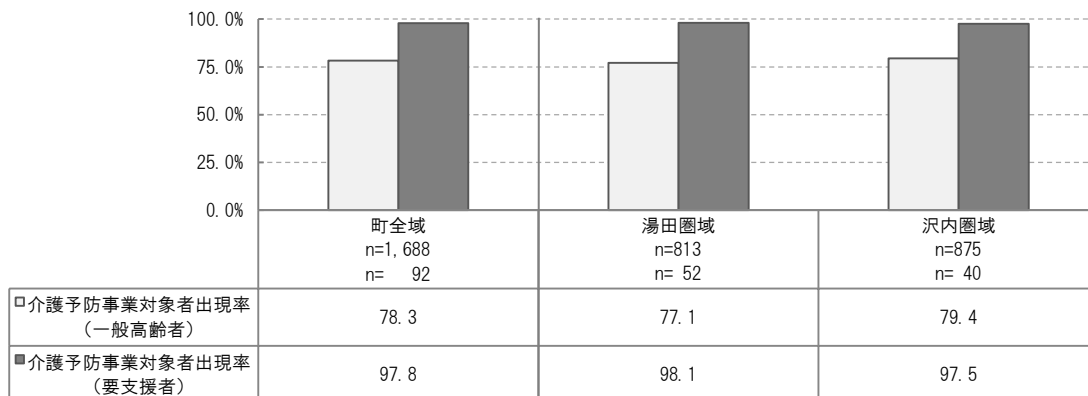
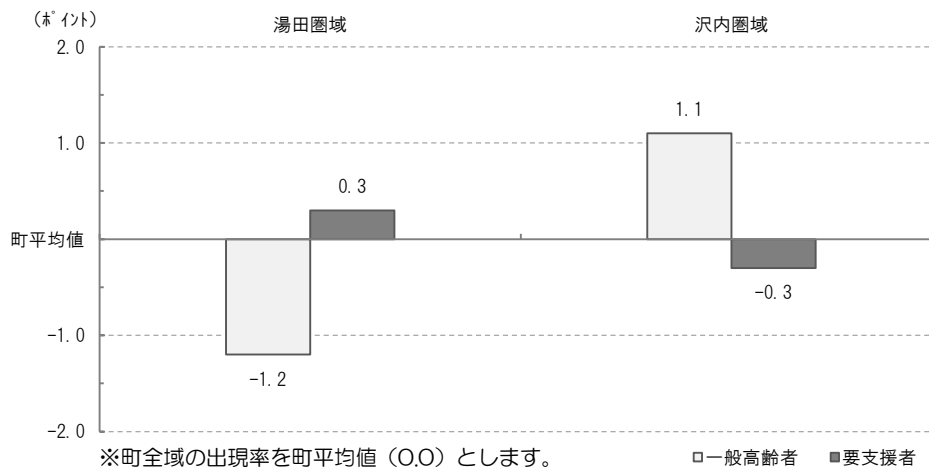
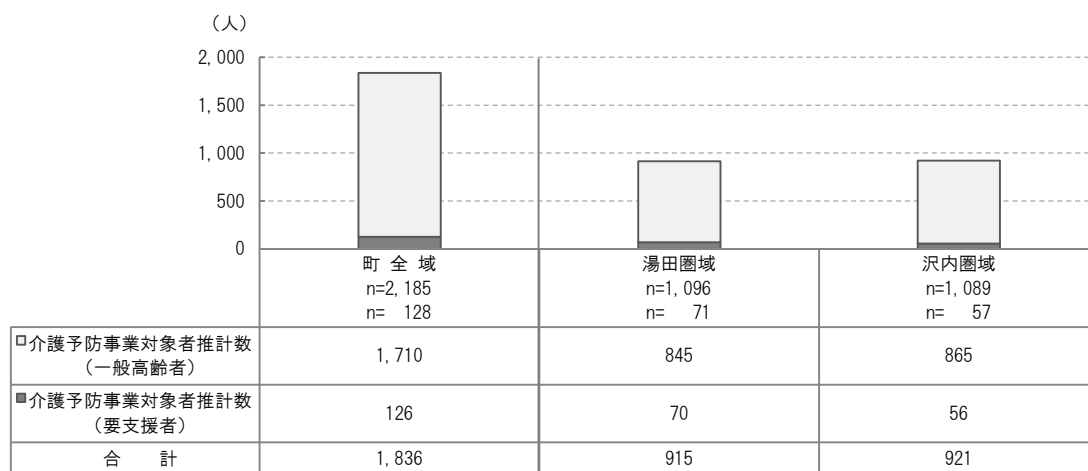


図 4.5 介護予防事業対象者出現率の地域差



○介護予防事業対象者の推計人数をみると、町全域では約1,800人になると予測され、湯田圏域、沢内圏域ともに約900人になる見込みです。

図 4.6 介護予防事業対象者数（推計）

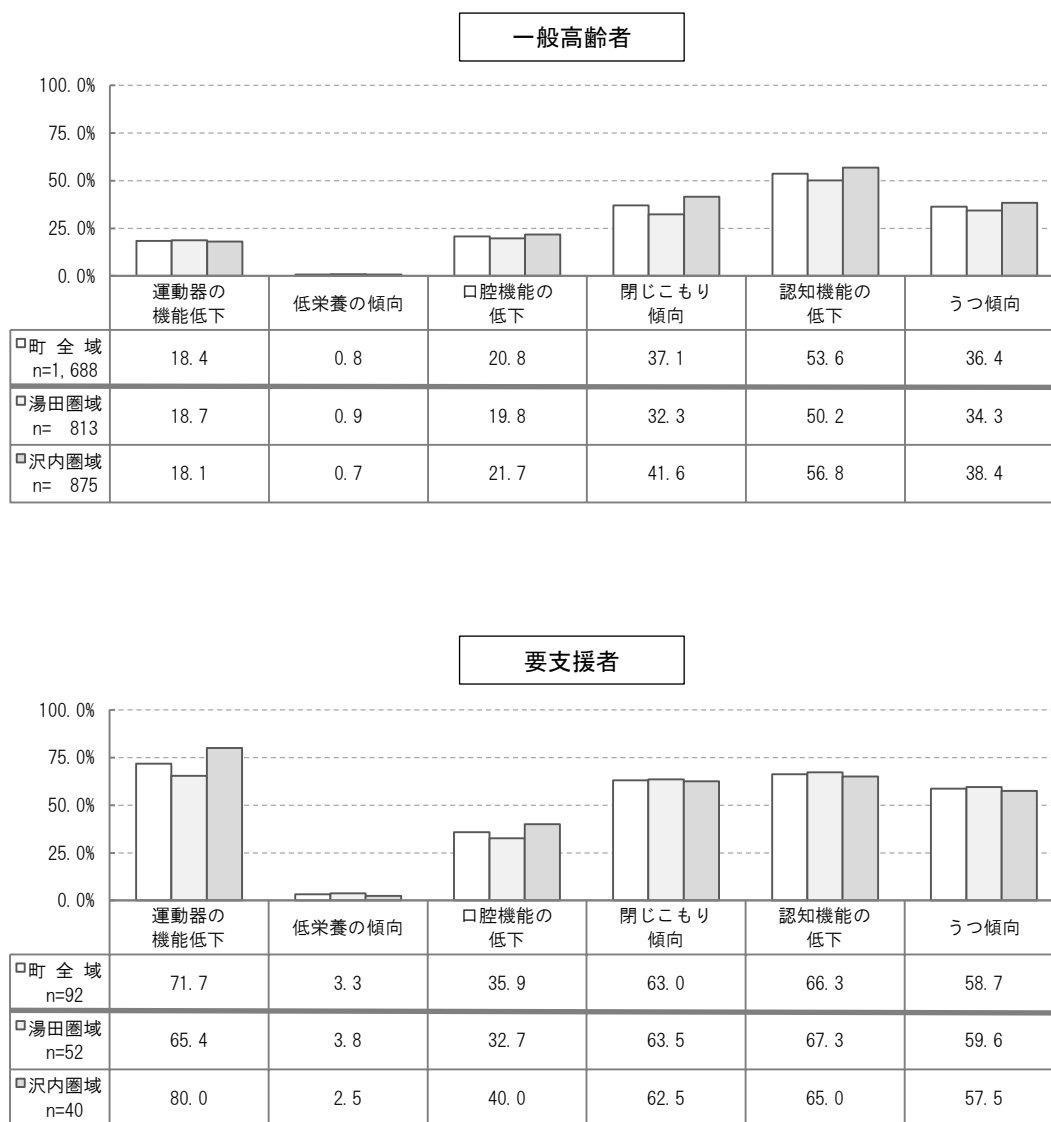


## (2) リスクに該当する高齢者数の予測とニーズ算出

○一般高齢者において各リスク該当高齢者の出現率をみると、町全域では「認知機能の低下」が最も高く、次いで「閉じこもり傾向」、「うつ傾向」、「口腔機能の低下」、「運動器の機能低下」、「低栄養の傾向」となっています。

○要支援者では「運動器の機能低下」が最も高く、次いで「認知機能の低下」、「閉じこもり傾向」「うつ傾向」、「口腔機能の低下」、「低栄養の傾向」となっています。

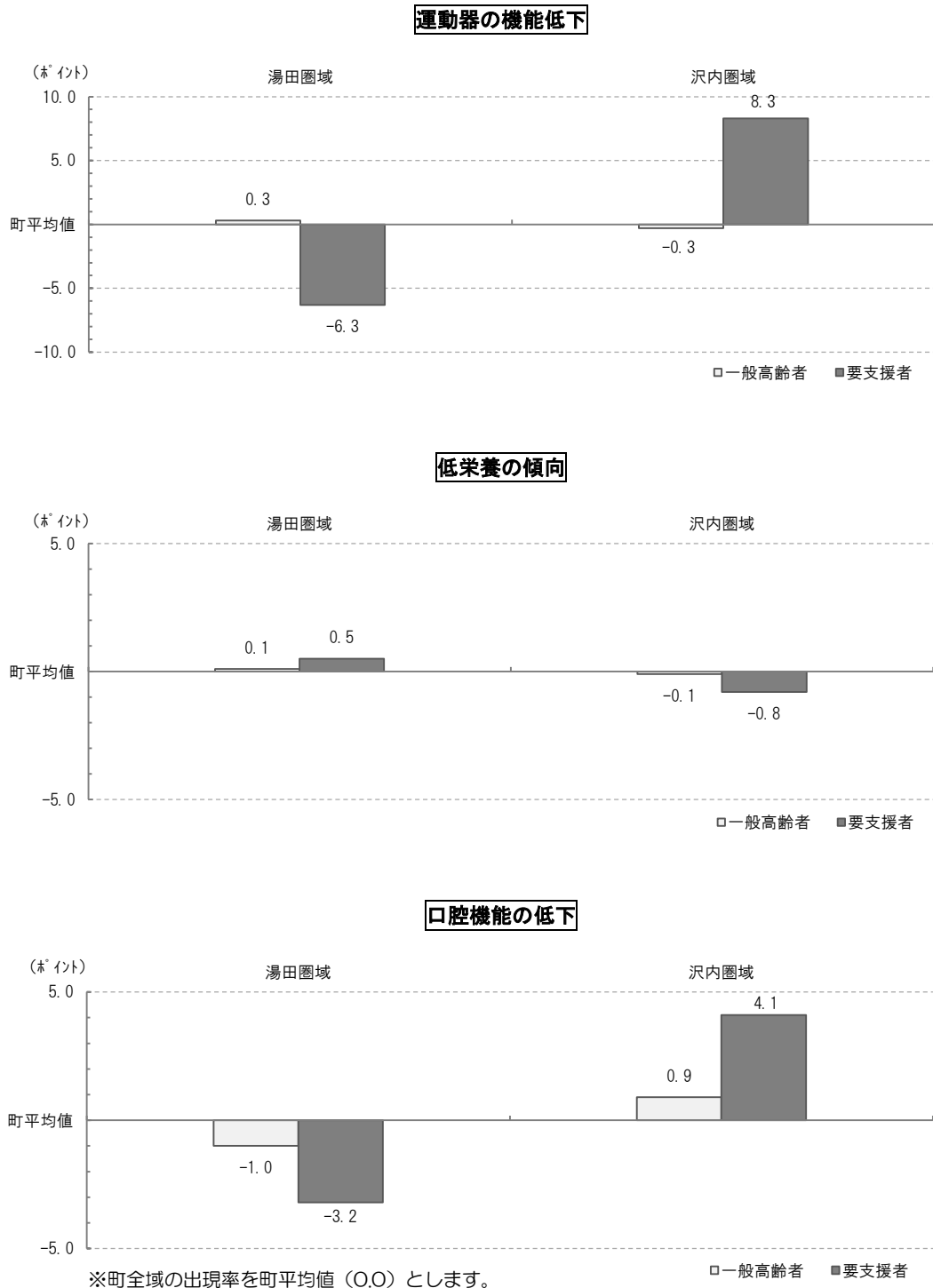
図 4.7 リスクに該当する高齢者の出現率





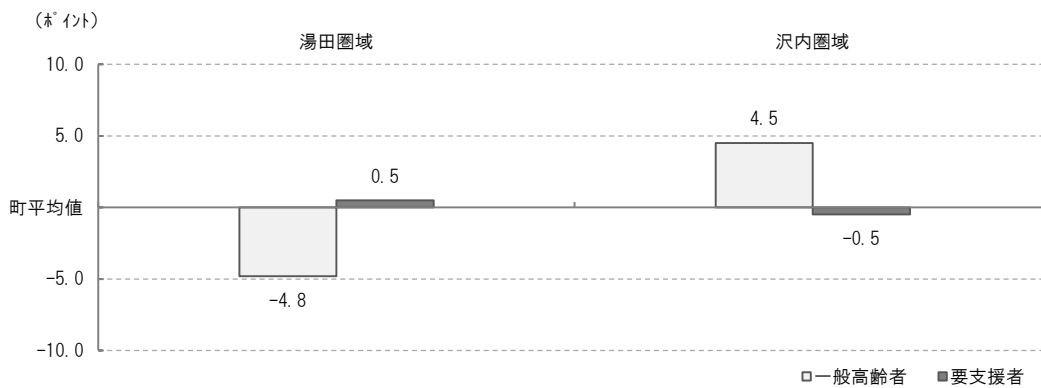
- 一般高齢者において出現率の地域差をリスクごとにみると、「運動器の機能低下」「低栄養の傾向」で湯田圏域、「口腔機能の低下」で沢内圏域が町平均値より高くなっています。
- 要支援者では、「運動器の機能低下」「口腔機能の低下」で沢内圏域、「低栄養の傾向」で湯田圏域が町平均値より高くなっています。

図 4.8 リスク出現率の地域差

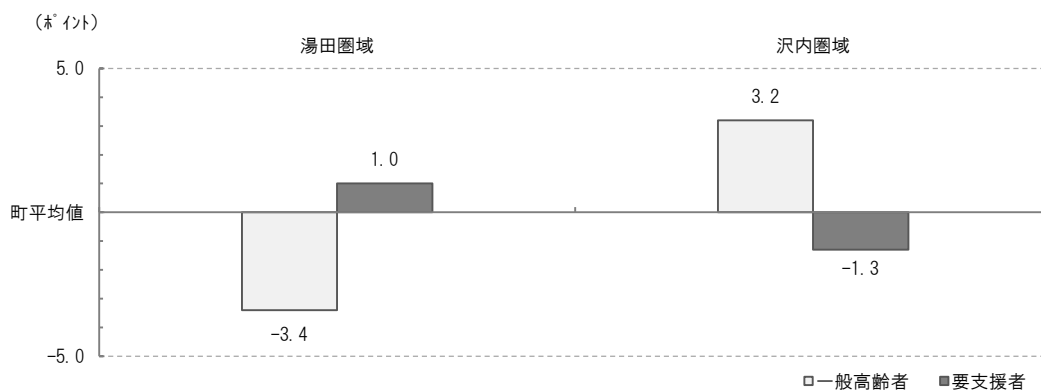


○「閉じこもり傾向」「認知機能の低下」「うつ傾向」をみると、3リスクとも一般高齢者では沢内圏域、要支援者では湯田圏域で町平均値より高くなっています。

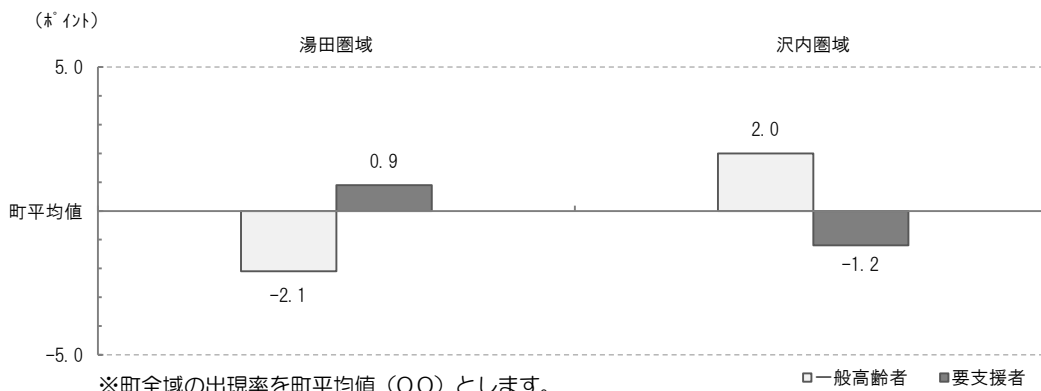
**閉じこもり傾向**



**認知機能の低下**



**うつ傾向**

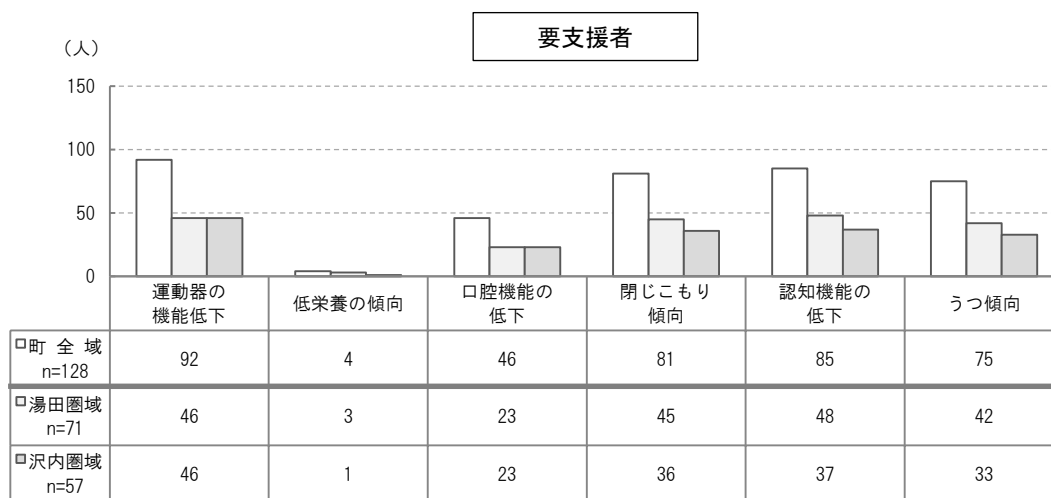
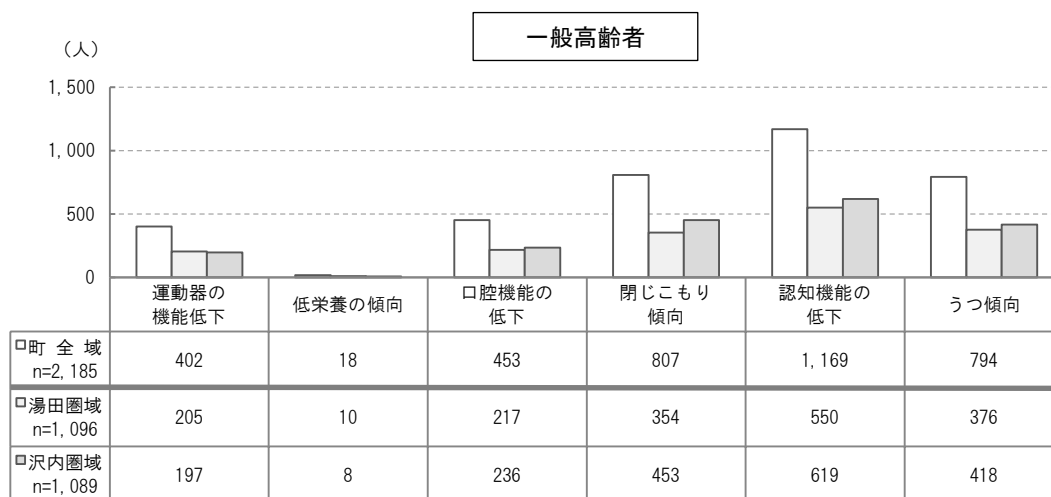


※町全域の出現率を町平均値 (0.0) とします。

○一般高齢者の各リスク該当高齢者の推計人数をみると、町全域では「認知機能の低下」で約1,200人、「閉じこもり傾向」「うつ傾向」で約800人となる見込みです。

○要支援者では「運動器の機能低下」で約90人、「認知機能の低下」「閉じこもり傾向」で約80人となる見込みです。

図 4.9 各リスクに該当する高齢者数（推計）



### (3) 生活支援事業対象者数の予測とニーズ算出

○生活支援事業対象者の出現率の地域差をみると、一般高齢者では湯田圏域で町平均値より高く、2圏域の出現率（47.8%・43.8%）の差は4.0<sup>ポイント</sup>となっています。

○要支援者でも湯田圏域で町平均値より高く、2圏域の出現率（71.2%・65.0%）の差は6.2<sup>ポイント</sup>となっています。

図 4.10 生活支援事業対象者出現率

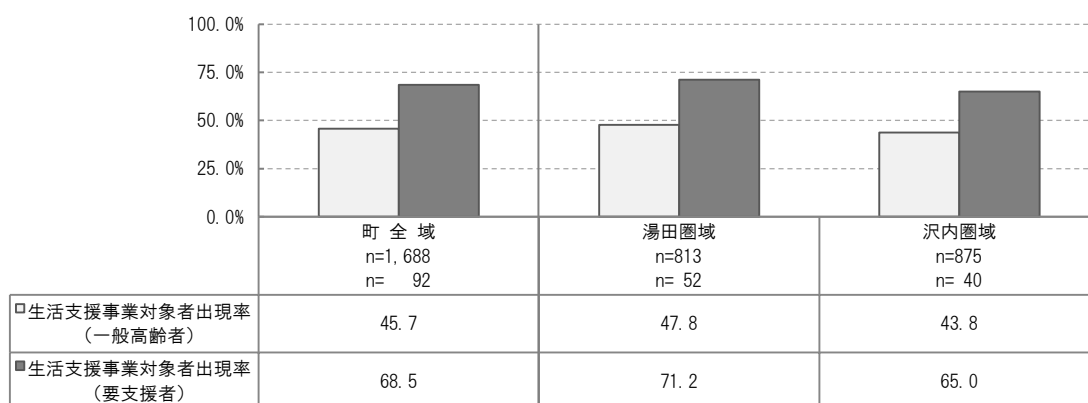
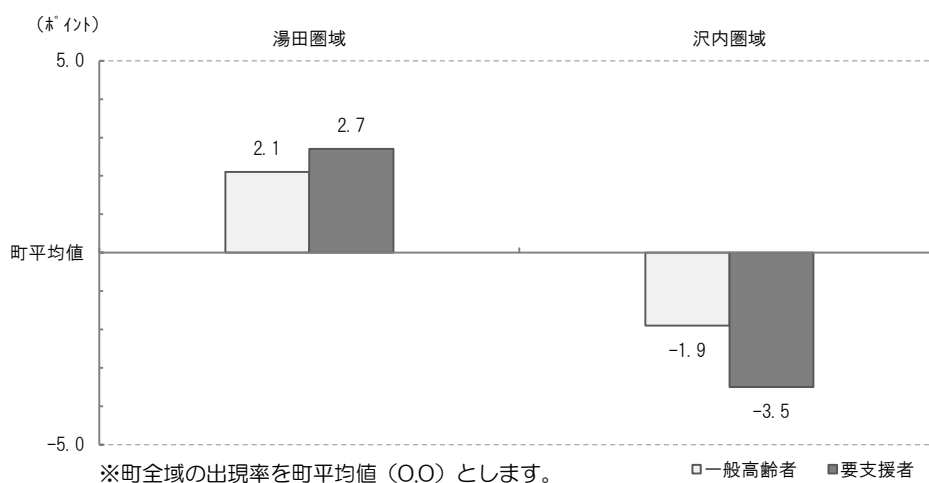
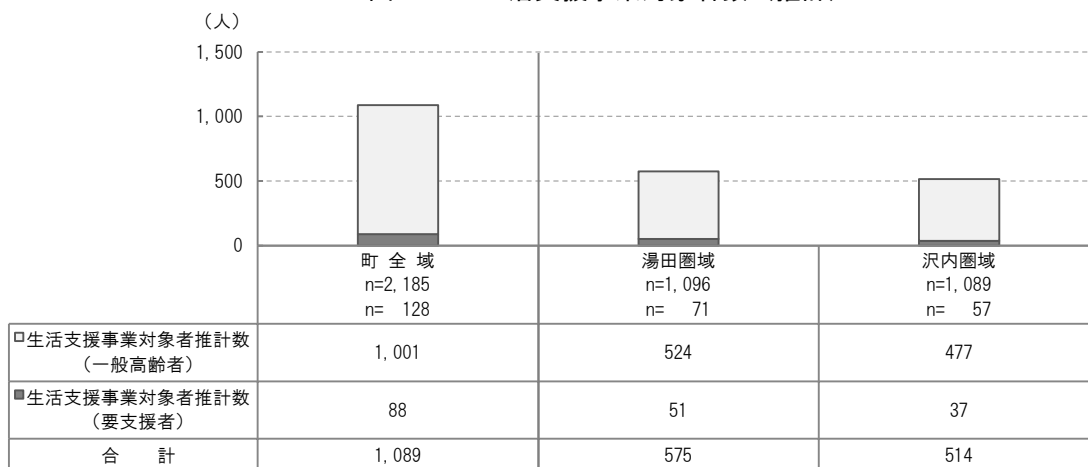


図 4.11 生活支援事業対象者出現率の地域差



○生活支援事業対象者の推計人数をみると、町全域では約1,000人になると予測され、湯田圏域、沢内圏域ともに約500人になる見込みです。

図 4.12 生活支援事業対象者数（推計）



#### (4) 生活支援を担う元気高齢者の支援

○一般高齢者において元気高齢者の出現率の地域差をみると、沢内圏域で町平均値より高く、湯田圏域で低くなっています。

○元気高齢者の推計人数をみると、町全域では約50人になると予測されます。

図 4.13 元気高齢者出現率



図 4.14 元気高齢者出現率の地域差

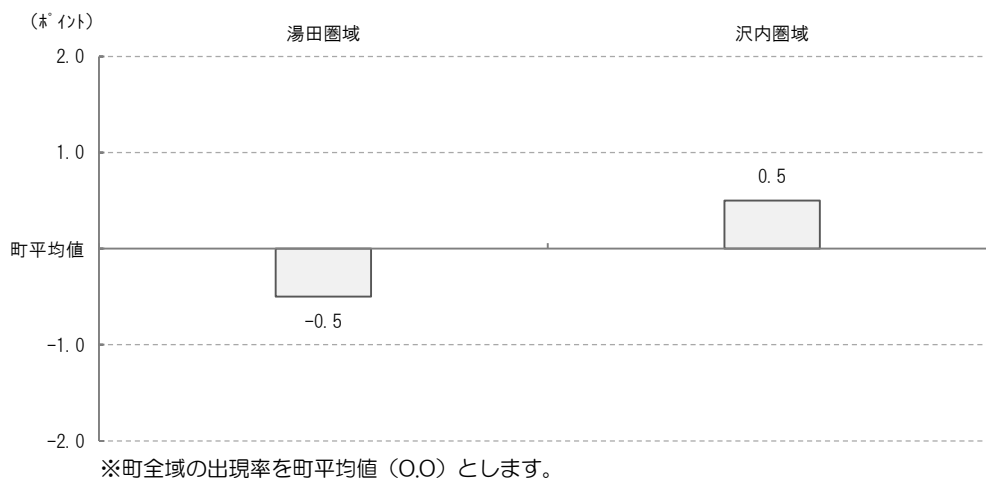
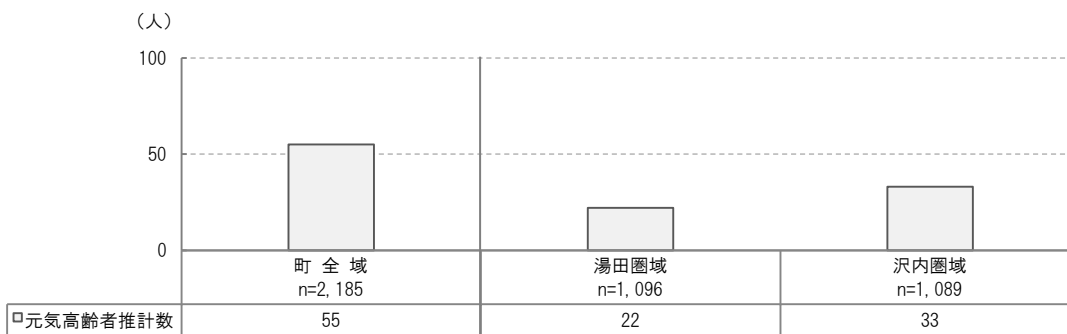


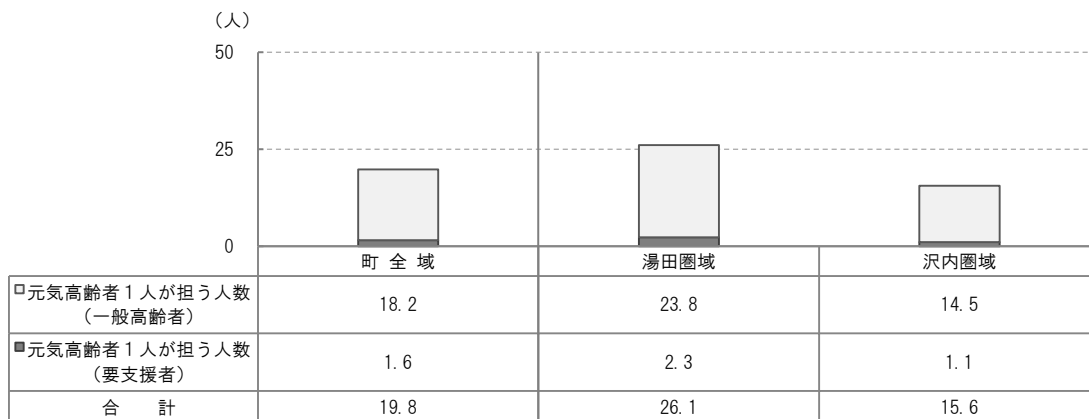
図 4.15 元気高齢者数 (推計)



○元気高齢者1人が担う生活支援事業対象者の推計人数をみると、町全域では19.8人になると予測されます。

○圏域別では湯田圏域で26.1人となり、町全域より多くなる見込みです。

図 4.16 元気高齢者1人が担う生活支援事業対象者の人数（推計）



### 3 認知症高齢者対策に関するニーズ算出

#### (1) 認知機能レベル I・II 該当者数の状況

○認知機能レベル I・II に該当した一般高齢者の出現率の地域差をみると、沢内圏域で町平均値より高く、2圏域の出現率（31.4%・24.7%）の差は6.7ポイントとなっています。

○一方、要支援者の出現率の地域差をみると、沢内圏域が町平均値を大きく上回り、2圏域の出現率（57.5%・40.4%）の差は17.1ポイントとなっています。

図 4.17 認知機能レベル I・II 該当者の出現率

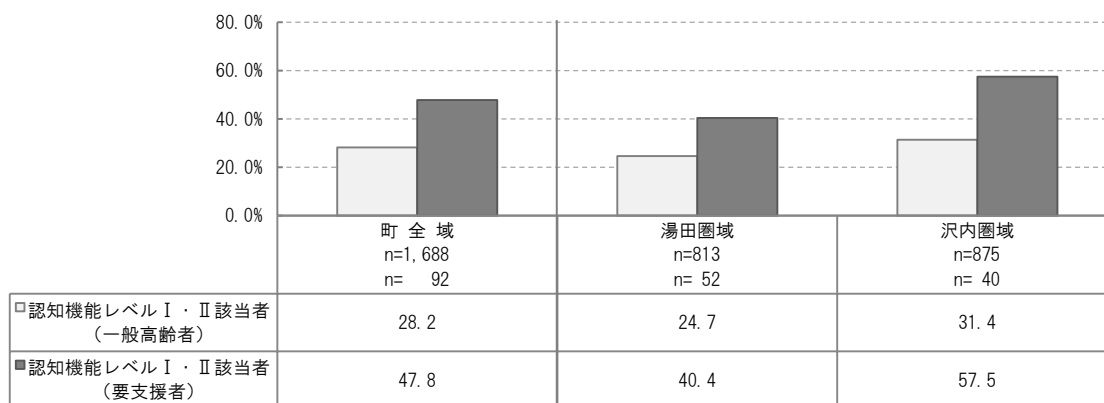
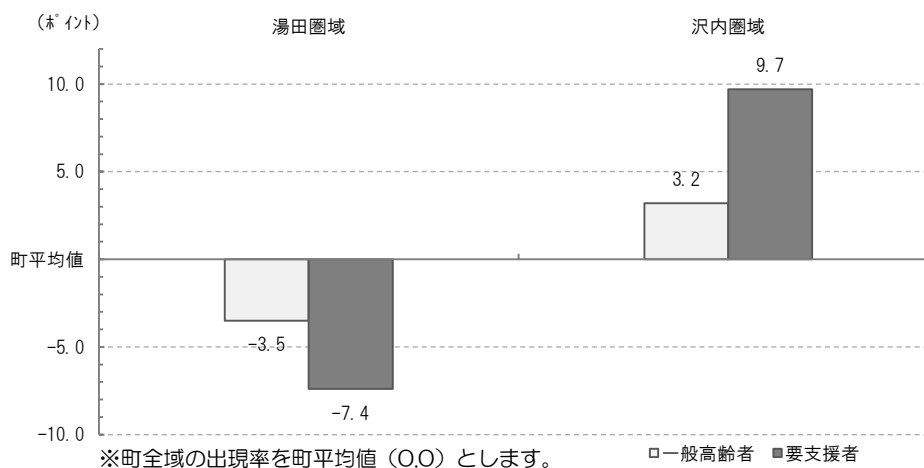


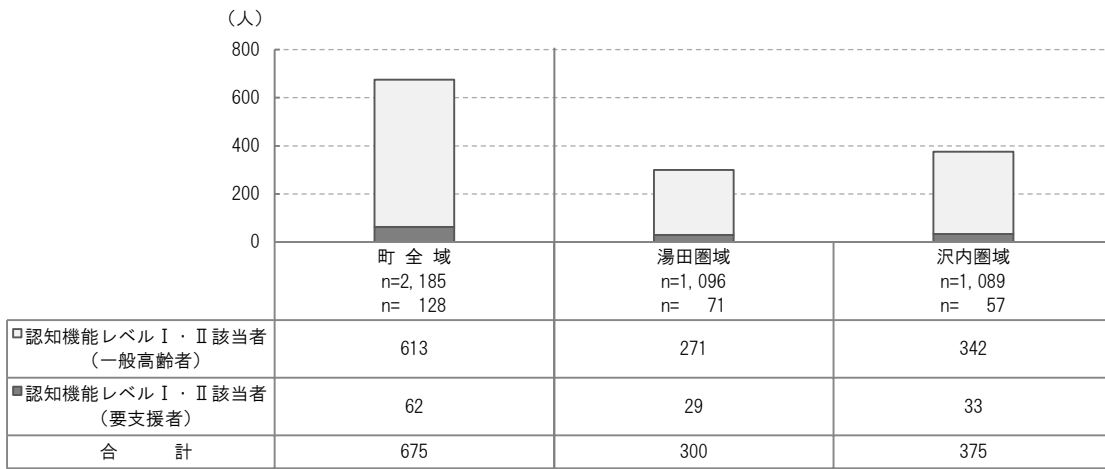
図 4.18 認知機能レベル I・II 該当者出現率の地域差





○認知機能レベルⅠ・Ⅱ該当者の推計人数をみると、町全域では約700人になると予測され、沢内圏域が湯田圏域より多くなる見込みです。

図 4.19 認知機能レベルⅠ・Ⅱ該当者数（推計）



## 4 在宅医療・介護の推進

### (1) 要介護者の状況

○要介護者（452人）の認定率をみると、「要介護3～5」の重度認定者が8.5%、「要介護1」が4.0%、「要介護2」が3.8%となっています。

○圏域別にみると、湯田圏域は「要介護2」「要介護4」、沢内圏域は「要介護1」「要介護3」「要介護5」で町全域より高くなっています。

図 4.20 地域の介護度別要介護者数

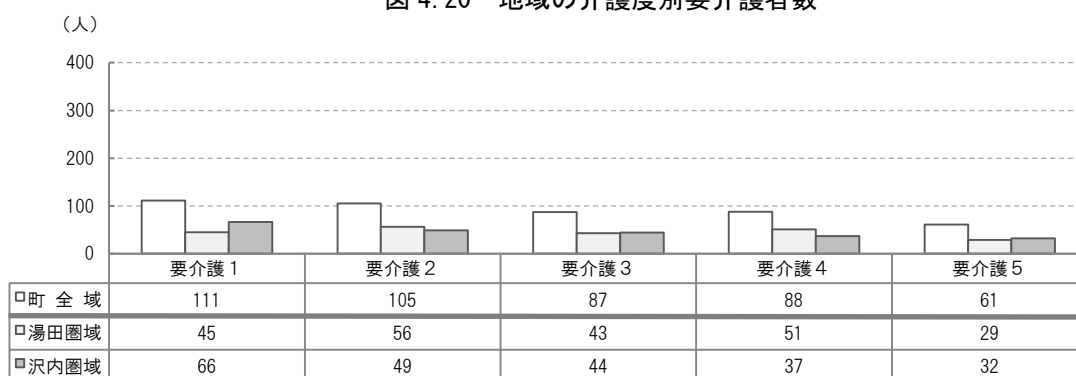
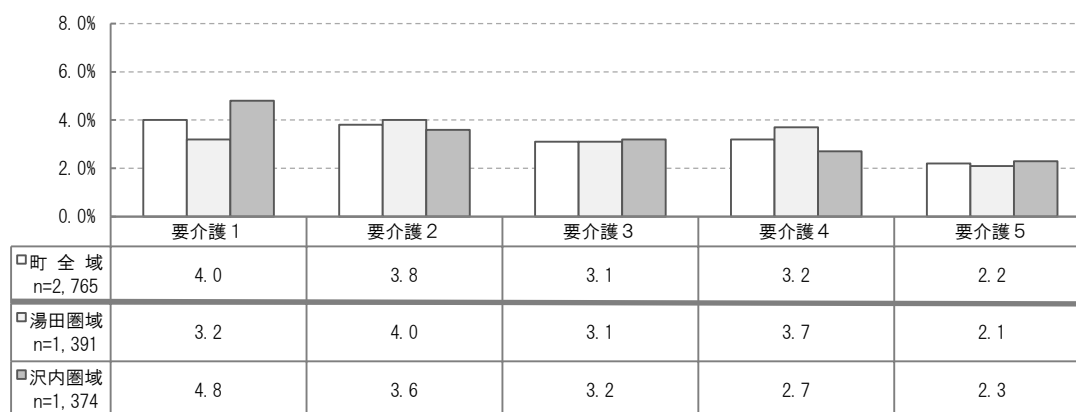


図 4.21 地域の要介護者の介護度別認定率

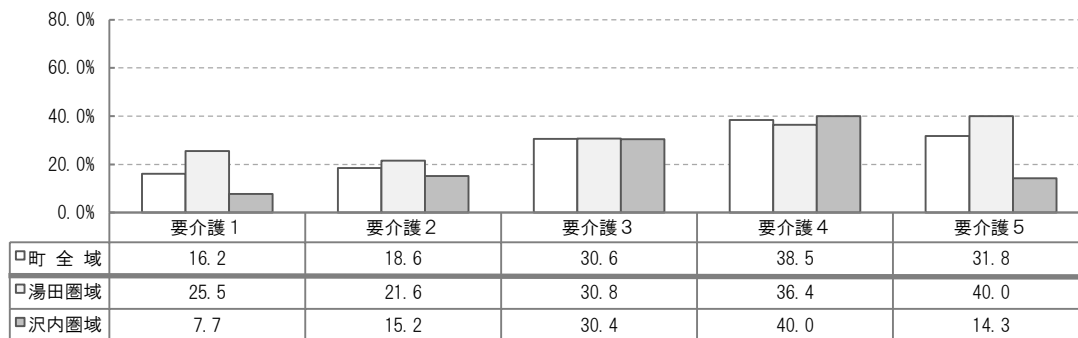


## (2) 在宅医療に関するニーズ

○訪問診療を利用している要介護者の出現率をみると、町全域では「要介護4」「要介護5」「要介護3」の順に高く、湯田圏域では「要介護4」を除き町全域より高くなっています。

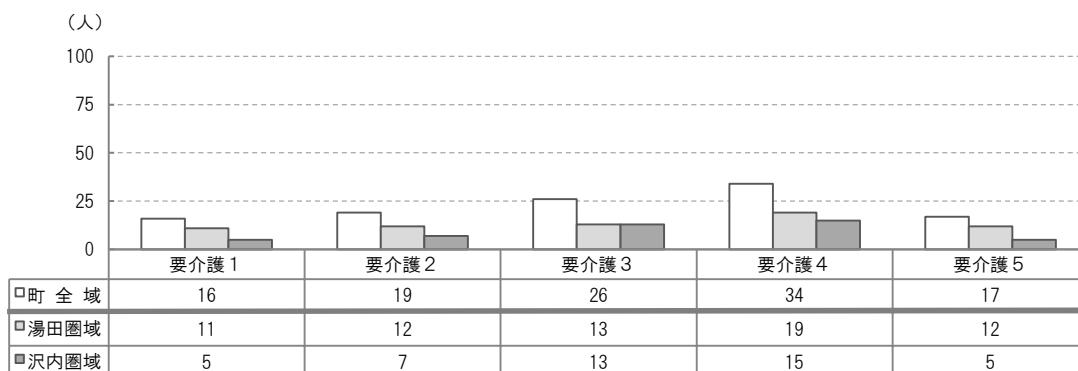
○訪問診療利用者は町全域で「要介護4」「要介護3」「要介護2」の順となっています。

図 4.22 訪問診療を利用している要介護者の出現率



※母数は圏域別・介護度別で異なるため表記を省略。

図 4.23 訪問診療を利用している要介護者数（推計）

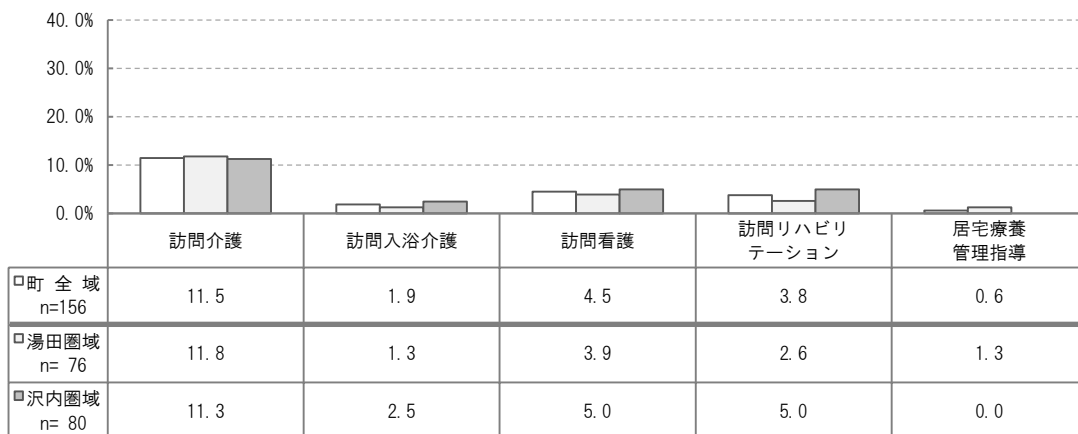


※母数は圏域別・介護度別で異なるため表記を省略。

### (3) 訪問診療の利用状況

○訪問診療利用者が利用する訪問系サービスの状況をみると、町全域では「訪問介護」、「訪問看護」、「訪問リハビリテーション」、「訪問入浴介護」、「居宅療養管理指導」の順に高いものの、利用者は「訪問介護」を除きいずれも10人未満となっています。  
 (圏域別は利用者が少数のためコメントを省略)

図 4.24 訪問診療利用者の訪問系介護サービス利用割合



## 5 介護離職の要因と問題軽減

### (1) 家族介護者の介護離職の状況

○介護者の離職状況をみると、町全域では、転職者を含む「継続就労者」が「介護離職者」を上回り、圏域別でも同様の状況となっています。

○介護離職者が介護している方の状態をみると、町全域では「認知症高齢者」が「要介護3～5」を上回っています。

(圏域別は対象者が少数のためコメントを省略)

図 4.25 介護者の離職状況

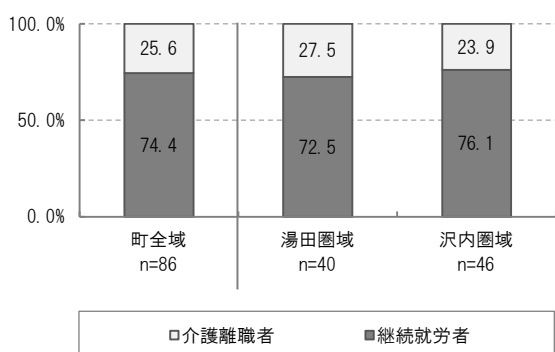
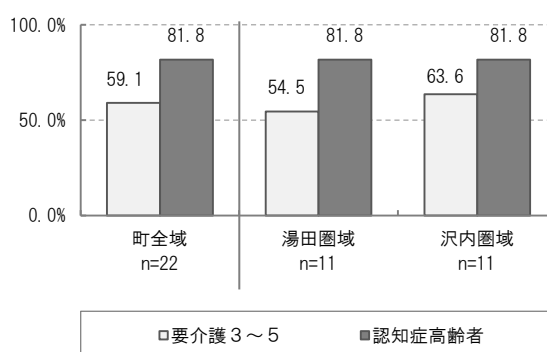


図 4.26 離職者が介護する要介護者の状態



※介護離職者：問7で「仕事を辞めた（転職除く）」と回答（「1」「2」を選択）した方の割合、

継続就労者：①問7で「転職した」と回答（「3」「4」を選択）した方と、②「5. 介護のために仕事を辞めた家族・親族はいない」と回答し、問14で「1. フルタイムで働いている」「2. パートタイムで働いている」と回答した方の割合。

※認知症高齢者：認知症高齢者の自立度が「Ⅱ」以上の方の割合。

○介護離職者が介護している方の世帯状況をみると、町全域では「その他世帯」が約6割で最も多くなっています

(圏域別は対象者が少数のためコメントを省略)

○就労している介護者の今後の仕事と介護の両立についてみると、町全域では「(何とか)続けていける」方が、「続けていくのは、難しい」方を大きく上回り、圏域別でも同様の状況となっています。

図 4.27 離職者が介護する要介護者の世帯状況

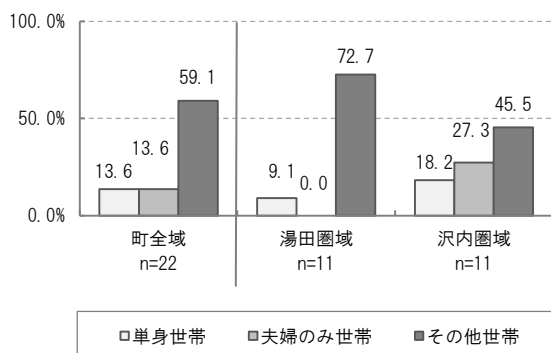
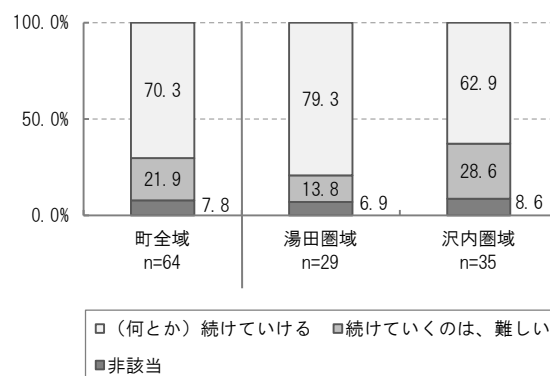


図 4.28 就労している介護者の今後の仕事と介護の両立の可否



※継続就労者：①問7で「転職した」と回答（「3」「4」を選択）した方と、②「5. 介護のために仕事を辞めた家族・親族はいない」と回答し、問14で「1. フルタイムで働いている」「2. パートタイムで働いている」と回答した方

※図4.28の凡例について

「(何とか) 続けていける」…問14-3で「問題なく、続けていける」「問題はあるが、何とか続けていける」と回答した方

「続けていくのは、難しい」…同設問で「続けていくのは、やや難しい」「続けていくのは、かなり難しい」と回答した方

非該当…同設問で上記以外に回答した方と問14で対象外となった方

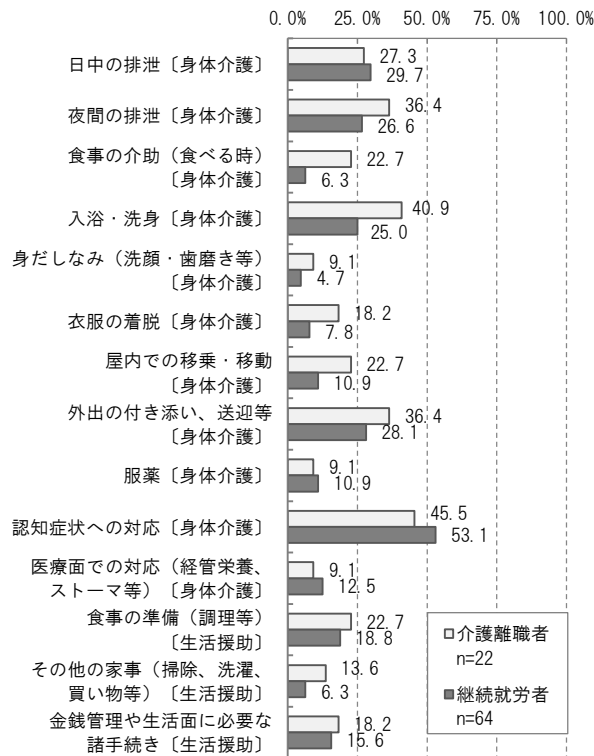
## (2) 家族介護者の介護状況

○主な介護者が現在の生活を今後も続けていくうえで不安に思う介護等を町全域でみると、介護離職者では「認知症状への対応」、「入浴・洗身」、「夜間の排泄」と「外出の付き添い、送迎等」、「日中の排泄」、継続就労者では「認知症状への対応」、「日中の排泄」、「外出の付き添い、送迎等」、「夜間の排泄」、「入浴・洗身」の順に高く、介護離職者・継続就労者ともに「認知症状への対応」に最も不安を感じている状況です。

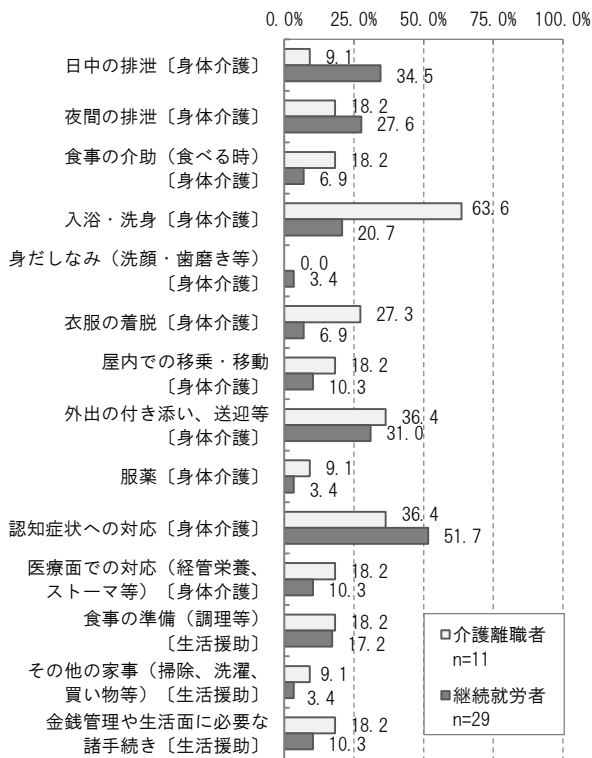
○圏域別でみると、湯田圏域では介護離職者が「入浴・洗身」、「外出の付き添い、送迎等」と「認知症状への対応」、「衣服の着脱」、継続就労者が「認知症状への対応」、「日中の排泄」、「外出の付き添い、送迎等」、沢内圏域では介護離職者が「夜間の排泄」と「認知症状への対応」、「日中の排泄」、「外出の付き添い、送迎等」、継続就労者が「認知症状への対応」、「入浴・洗身」、「日中の排泄」と「夜間の排泄」と「外出の付き添い、送迎等」の順となっています。

図 4.29 主な介護者が不安に思う介護等

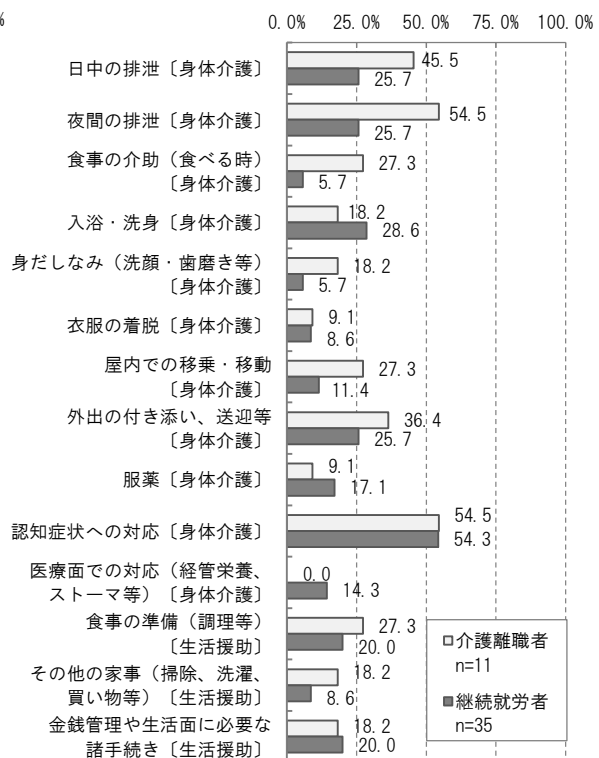
町全域



湯田圏域



沢内圏域



### (3) 介護給付サービス利用状況

○介護離職者が介護している方のサービス利用状況をみると、町全域では「通所系・短期系のみ」が高く、湯田圏域でも同様の状況、沢内圏域では「訪問系を含む」と「通所系・短期系のみ」が同率となっています。

○継続就労者が介護している方のサービス利用状況をみると、町全域では「通所系・短期系のみ」が高く、湯田圏域・沢内圏域でも同様の状況となっています。

○今後も介護と仕事の両立を継続できると回答した介護者の利用状況は、町全域では「通所系・短期系のみ」が高く、湯田圏域・沢内圏域でも同様の状況となっています。

○上記の方の訪問系サービスの利用日数をみると、町全域で「1～10日」が高いものの、ごく少数となっています。

(圏域別は対象者が少数のためコメントを省略)

図 4.30-1 要介護者のサービス利用状況 (介護離職者)

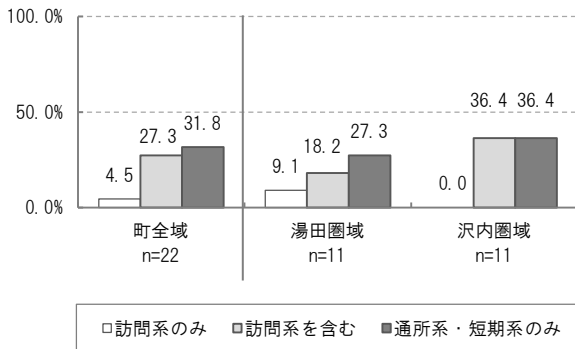
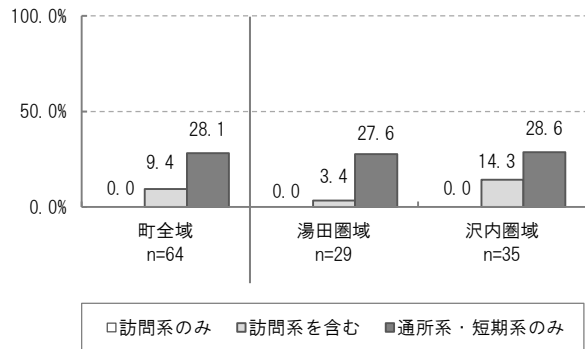


図 4.30-2 要介護者のサービス利用状況 (継続就労者)



※介護離職者：問7で「仕事を辞めた（転職除く）」と回答（「1」「2」を選択）した方の割合、  
 継続就労者：①問7で「転職した」と回答（「3」「4」を選択）した方と、②「5. 介護のために仕事を辞めた  
 家族・親族はいない」と回答し、問14で「1. フルタイムで働いている」「2. パートタイムで働いている」と  
 回答した方の割合。

図 4.31 要介護者のサービス利用状況 (今後も両立できる介護者)

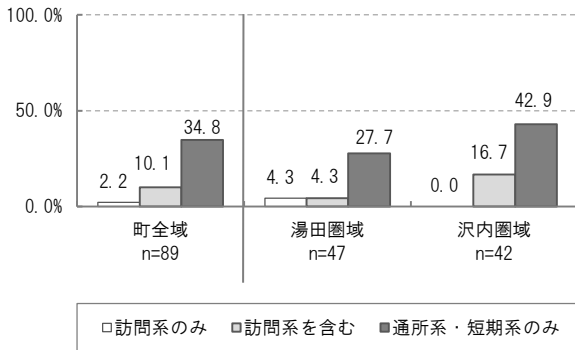
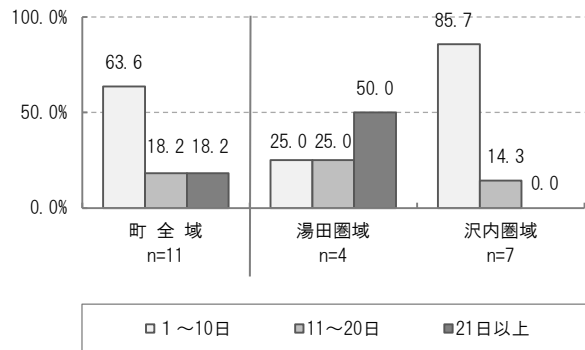


図 4.32 訪問系サービスの利用日数 (今後も両立できる介護者)





## 6 住まいのニーズ

### (1) 要介護者の施設入所意向

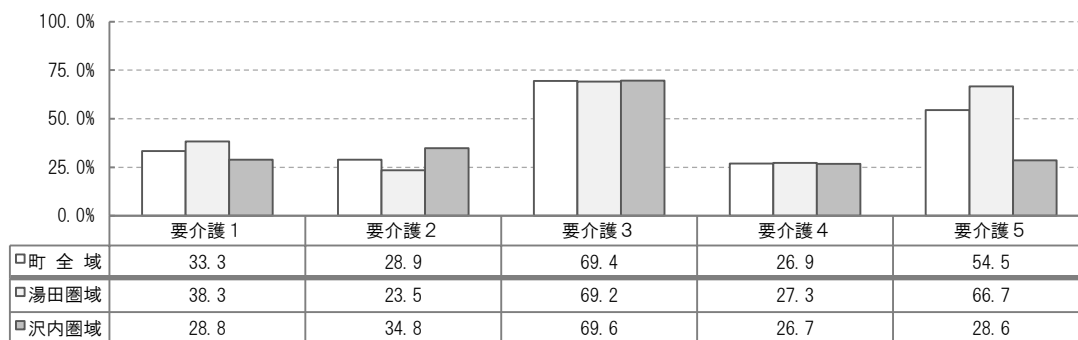
○要介護者の介護施設等への入所意向割合を介護度別にみると、町全域では「要介護3」が最も高く、次いで「要介護5」、「要介護4」となり、湯田圏域では「要介護5」「要介護4」、沢内圏域では「要介護3」が町全域より高くなっています。

(要介護1・2は介護施設への入所資格はありません)

○世帯類型別にみると、町全域では「単身世帯」「夫婦のみ世帯」「その他世帯」、湯田圏域では同様の状況、沢内圏域では「夫婦のみ世帯」「単身世帯」「その他世帯」の順となっています。

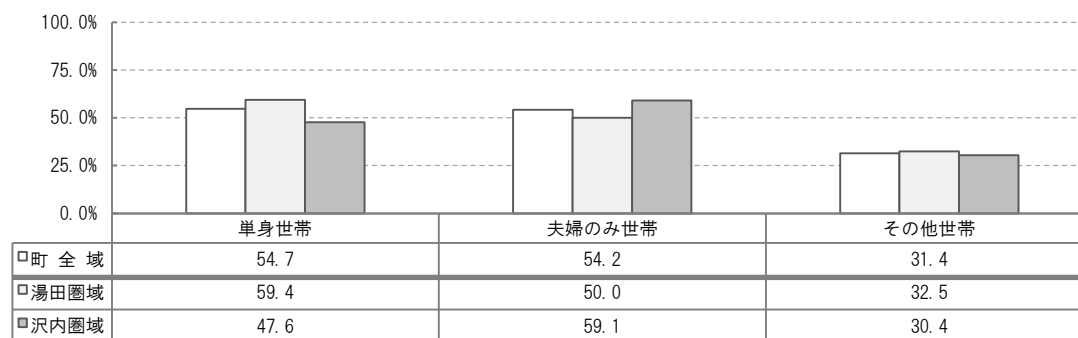
○また、訪問系サービスの利用状況別の施設入所意向をみると、町全域では「通所系・短期系のみ」「訪問系のみ」「訪問系含む」、湯田圏域では同様の状況、沢内圏域では「訪問系のみ」「通所系・短期系のみ」が同率、「訪問系含む」の順となっています。

図 4.33 要介護者の介護施設等への入所意向



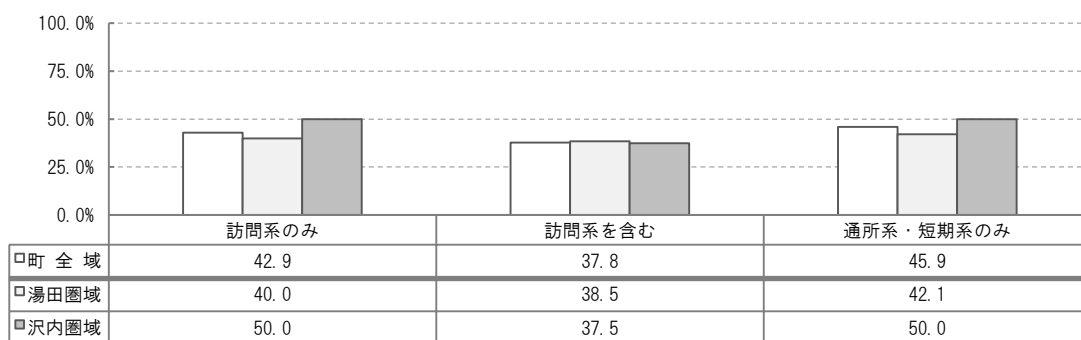
※母数は圏域別・介護度別で異なるため表記を省略。

図 4.34 要介護者の世帯類型別施設入所意向



※母数は圏域別・介護度別で異なるため表記を省略。

図 4.35 要介護者のサービス利用状況別施設入所意向



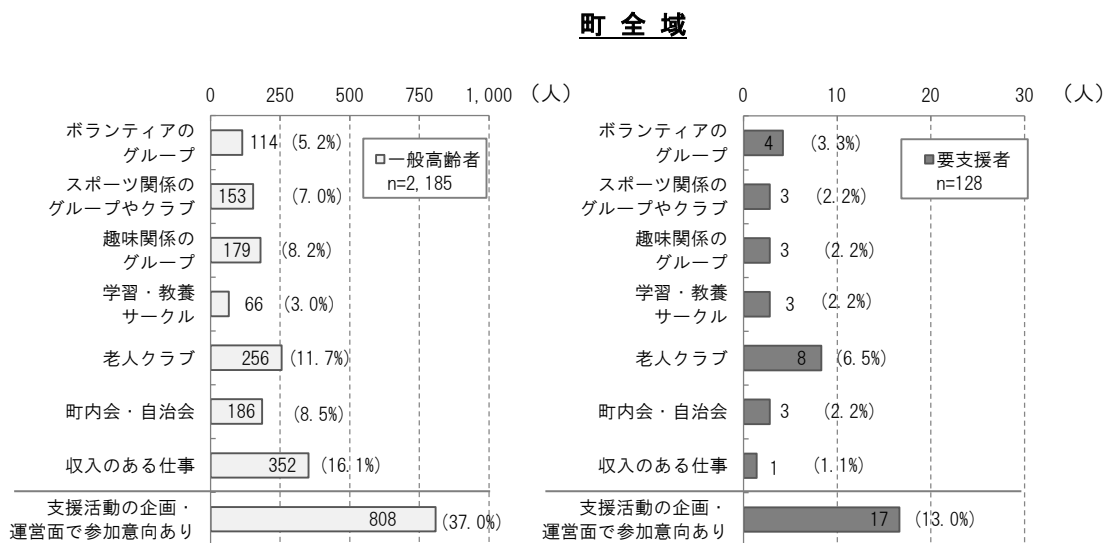
※母数は圏域別・サービス別で異なるため表記を省略。

## 7 地域資源等の把握

### (1) 地域活動への参加状況

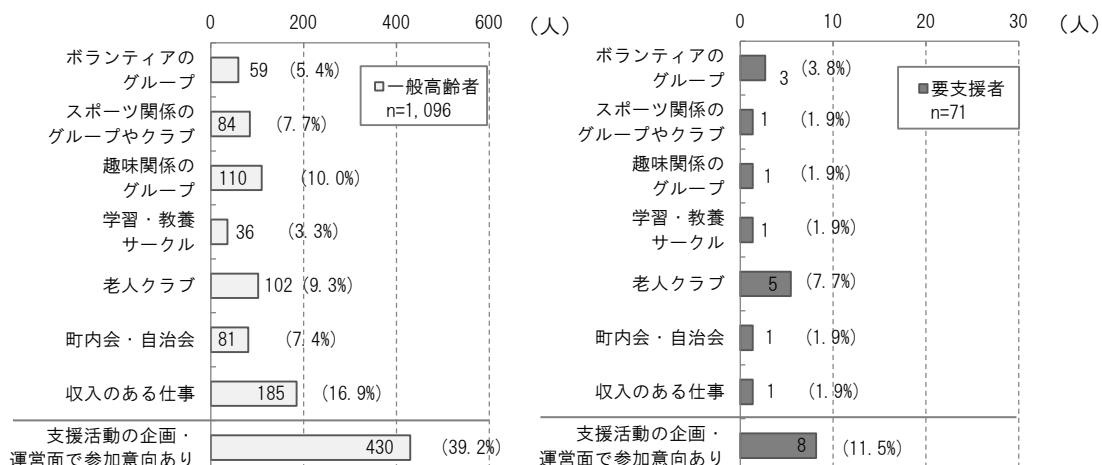
- 一般高齢者の地域活動への参加状況をみると、町全域では「収入のある仕事」、「老人クラブ」、「町内会・自治会」の順に16.1～8.5%の方が参加しています。圏域別でも「収入のある仕事」が最も高く、次いで沢内圏域では町全域と同様、湯田圏域では「趣味関係のグループ」、「老人クラブ」となっています。
- 要支援者をみると、町全域では「老人クラブ」、「ボランティアのグループ」の順に高く、3位以降は複数の活動で同率となっています。圏域別でも「老人クラブ」が最も高いものの、その他の活動では少数となっています。
- 一般高齢者の「支援活動の企画・運営面での参加意向」を圏域別にみると、湯田圏域で町全域より高く、沢内圏域で低くなっています。
- 要支援者では、沢内圏域で町全域より高く、湯田圏域で低くなっています。

図 4.36 高齢者の活動状況と企画運営支援意向（推計）

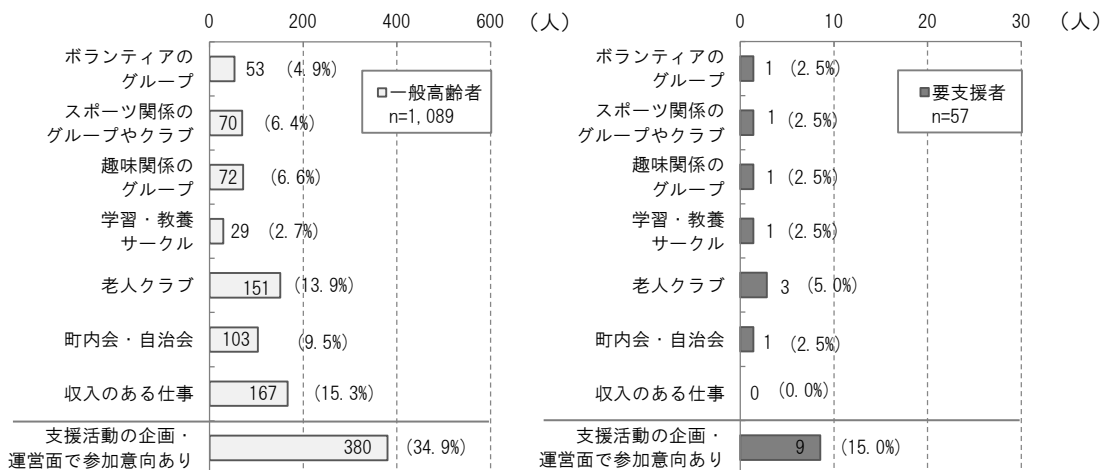


※問5（1）①ボランティア、②スポーツ関係、③趣味関係、④学習・教養、⑤老人クラブ、⑥町内会・自治会、⑦収入のある仕事で、「週4回以上」～「月に1～3回」のいずれかに回答した割合、また、問5（3）支援活動の企画・運営に「是非参加したい」「参加してもよい」に回答した割合です。

湯田圏域



沢内圏域



※問5（1）①ボランティア、②スポーツ関係、③趣味関係、④学習・教養、⑤老人クラブ、⑥町内会・自治会、⑦収入のある仕事で、「週4回以上」～「月に1～3回」のいずれかに回答した割合、また、問5（3）支援活動の企画・運営に「是非参加したい」「参加してもよい」に回答した割合です。

(2) 住んでいる地域で高齢者が支援できるもの（サービス）

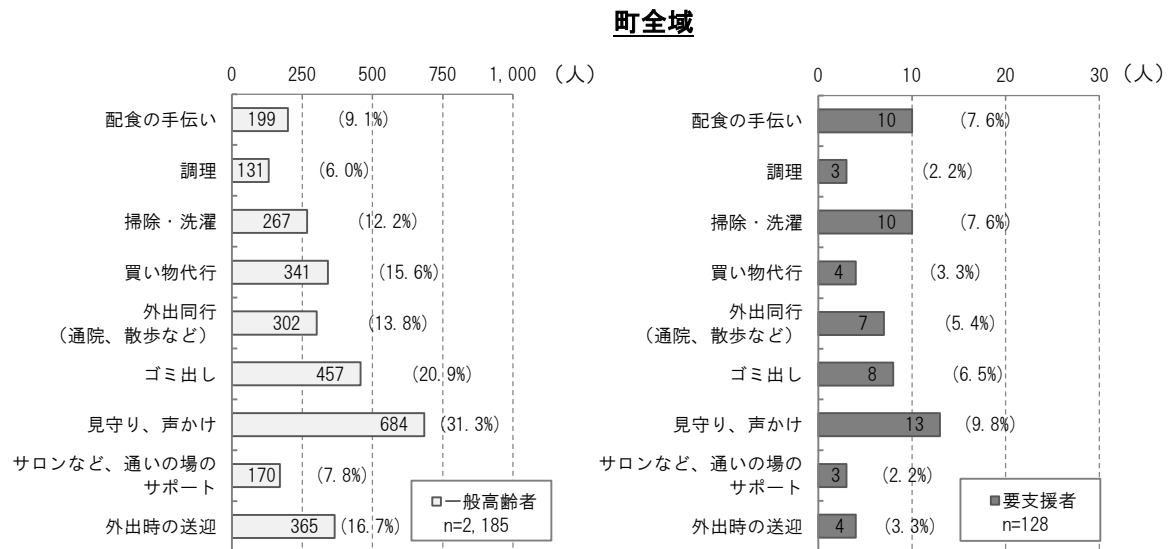
○一般高齢者が支援できると回答したサービスをみると、町全域の一般高齢者では「見守り、声かけ」が最も高く、次いで「ゴミ出し」「外出時の送迎」となり、圏域別でも同様の傾向となっています。

○要支援者は「見守り、声かけ」「配食の手伝い」「掃除・洗濯」「ゴミ出し」で地域貢献の意向が高くなっています。

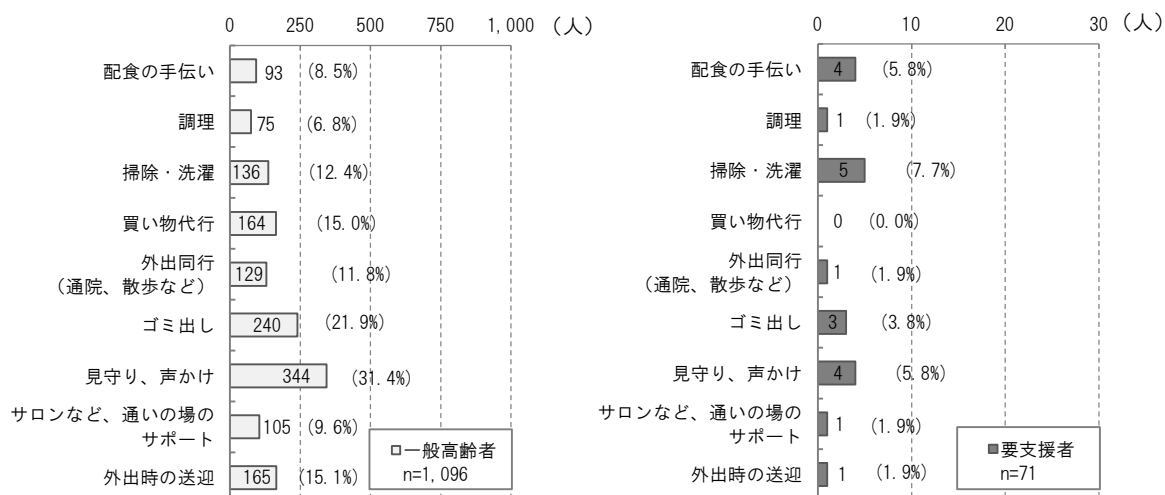
（要支援者の圏域別は対象者が少数のためコメントを省略）

○一般高齢者において町全域の上位3位を上回るサービスを圏域別にみると、湯田圏域では「見守り、声かけ」「ゴミ出し」、沢内圏域では「外出時の送迎」で高くなっています。

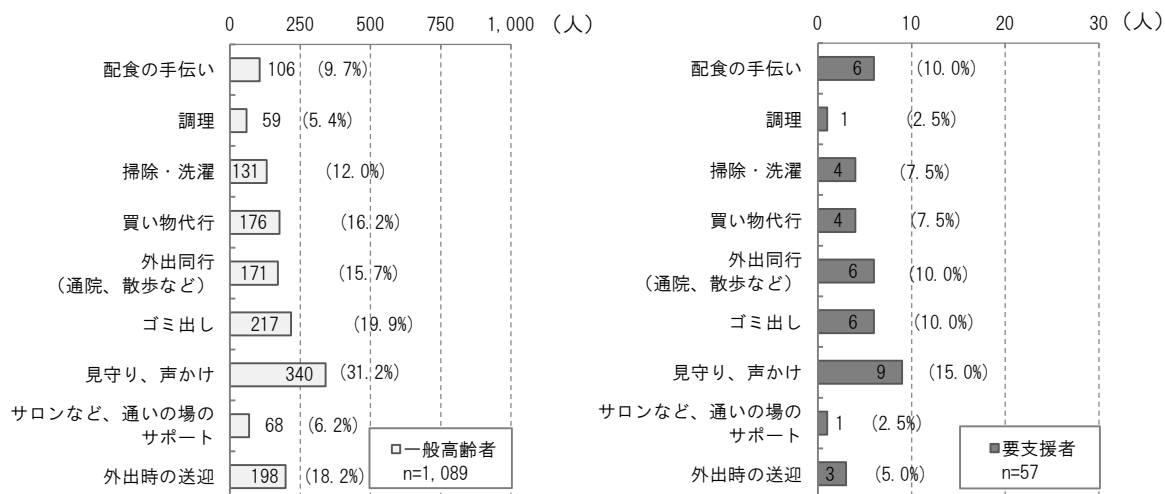
図 4.37 高齢者の地域支援意向（推計）



湯田圏域



沢内圏域



### (3) 社会参加と生きがい

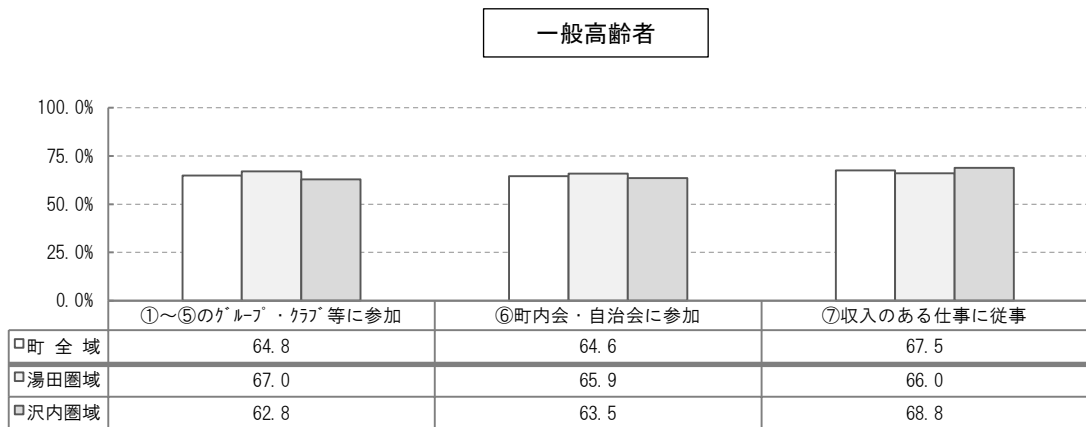
○一般高齢者が参加している地域活動の種類別に生きがい感をみると、町全域では「⑦収入のある仕事」「①～⑤のグループ・クラブ等」「⑥町内会・自治会」の順に67.5～64.6%の方々が生きがいを感じていると回答しています。

(要支援者は対象者が少数のためコメントを省略)

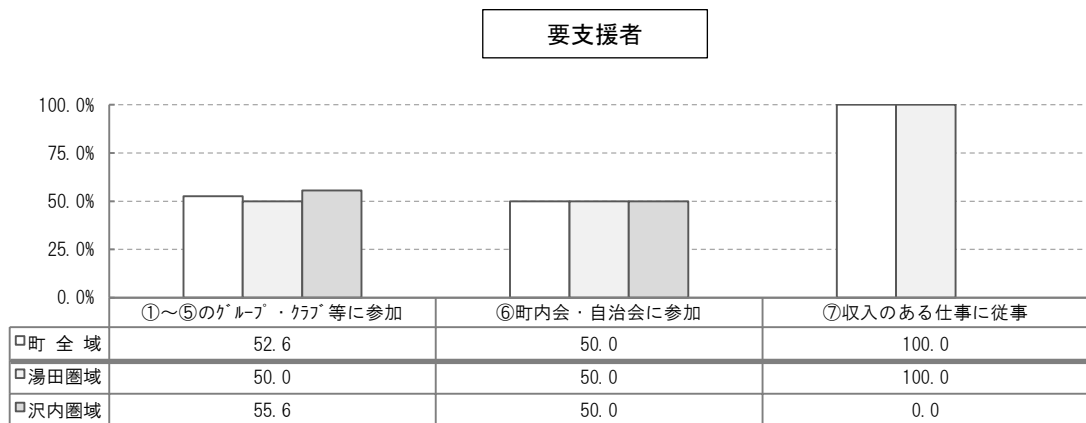
○圏域別にみると、湯田圏域で「①～⑤のグループ・クラブ等」「⑥町内会・自治会」、沢内圏域で「⑦収入のある仕事」が町全域より高くなっています。

(要支援者は対象者が少数のためコメントを省略)

図 4.38 地域活動参加者が生きがいを感じている割合



※母数は圏域別で異なるため表記を省略。

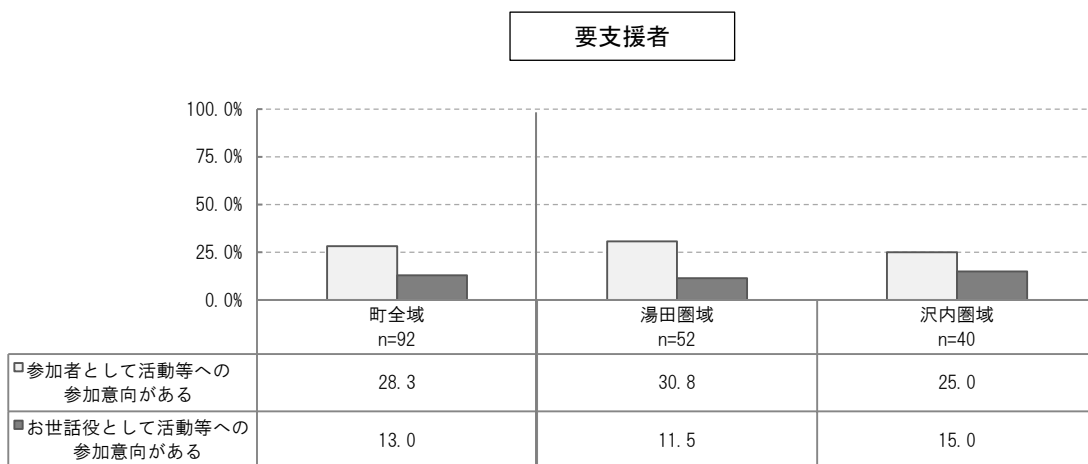
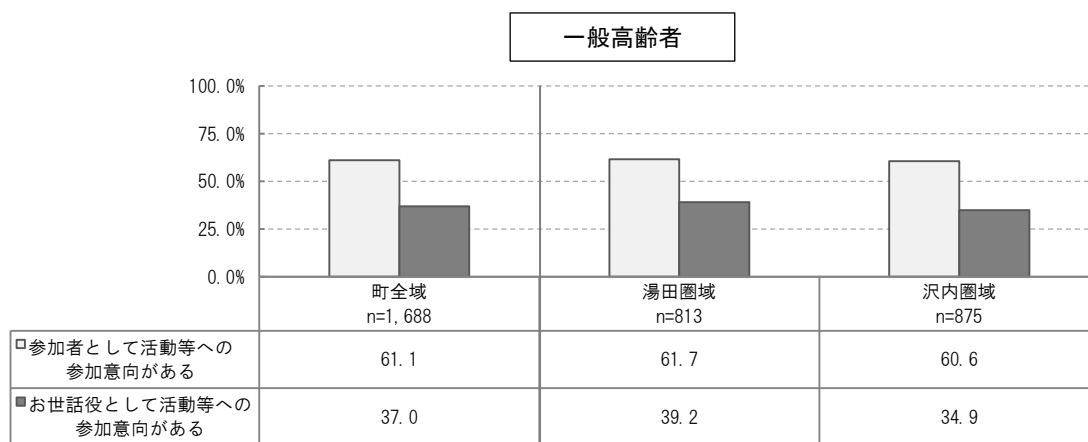


※母数は圏域別で異なるため表記を省略。

○地域活動に対する参加意向をみると、一般高齢者では湯田圏域で「参加者として活動等への参加意向がある/お世話役として活動等への参加意向がある」ともに町全域より高くなっています。

○一方、要支援者では湯田圏域で「参加者として活動等への参加意向がある」、沢内圏域で「お世話役として活動等への参加意向がある」が町全域より高くなっています。

図 4.39 地域づくりに対する参加意向



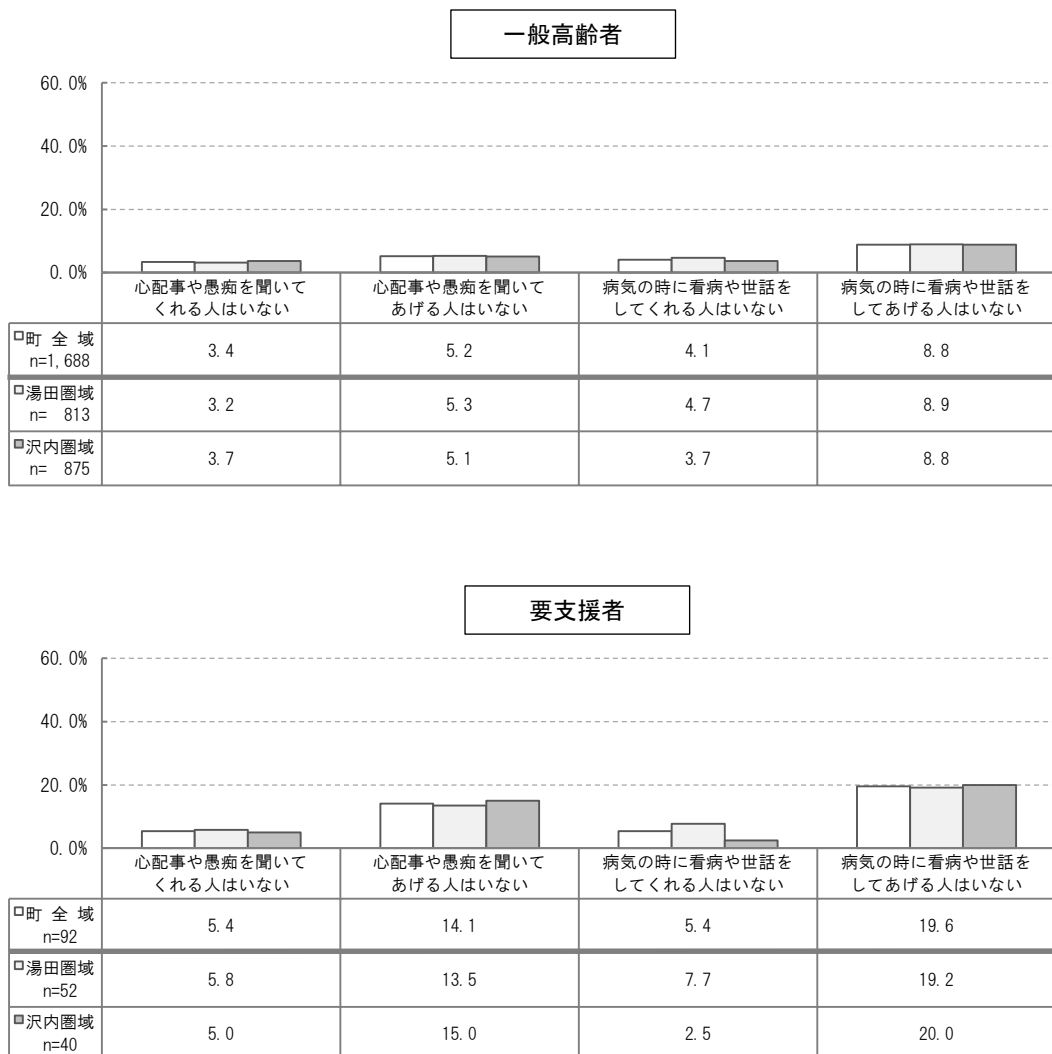


○一般高齢者のたすけあいの状況をみると、町全域では「病気の時に看病や世話をしてくれる人はいない」が最も高く、次いで「心配事や愚痴を聞いてあげる人はいない」、「病気の時に看病や世話をしてくれる人はいない」、「心配事や愚痴を聞いてくれる人はいない」となっています。

○圏域別にみると、沢内圏域では「心配事や愚痴を聞いてくれる人はいない」、湯田圏域では「病気の時に看病や世話をしてくれる人／あげる人はいない」「心配事や愚痴を聞いてあげる人はいない」で町全域より高くなっています。

○一方、要支援者をみると、町全域ではすべての項目で一般高齢者を上回っています。

図 4.40 たすけあいの状況



## 8 高齢者の公共交通機関の利用状況

○外出する際の公共交通機関の利用率をみると、一般高齢者・要支援者ともに湯田圏域が町全域より高くなっています。

○公共交通利用者数の推計人数をみると、町全域では約300人と予測され、圏域別では湯田圏域、沢内圏域の順に多くなる見込みです。

図 4.41 高齢者の公共交通利用率

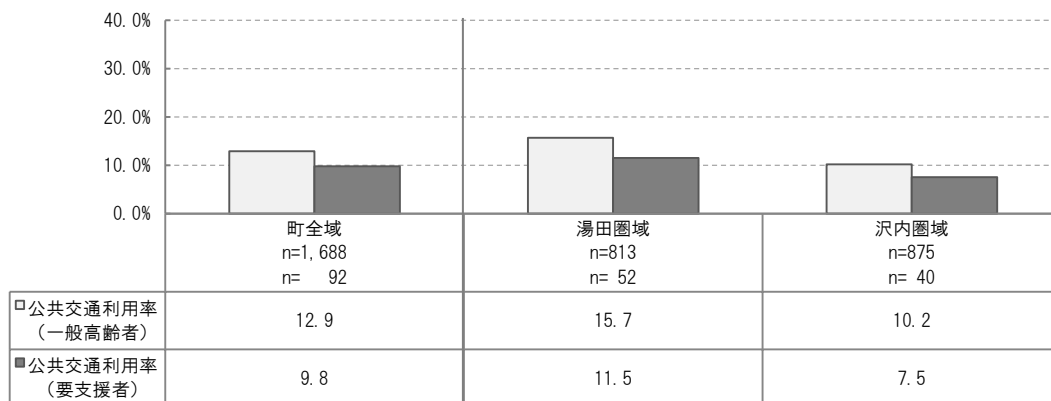


図 4.42 高齢者の公共交通利用率の地域差

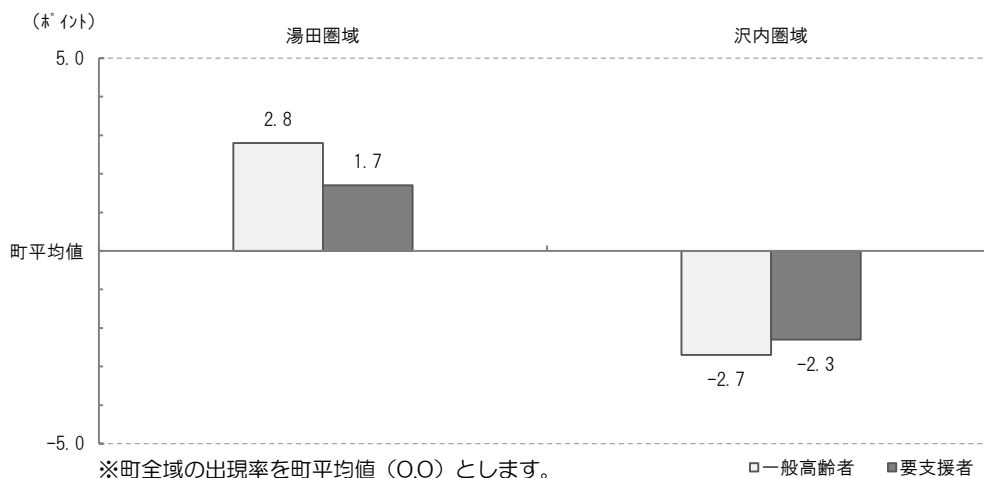
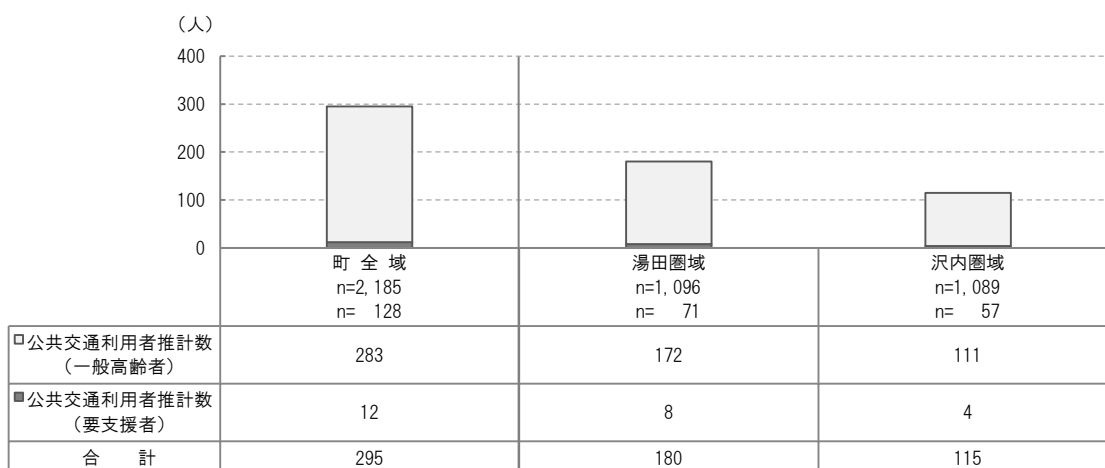


図 4.43 高齢者の公共交通利用者数（推計）



## 9 健康について

### (1) 高齢者の健康感や幸福感

#### ① 一般高齢者の主観的健康感

- 一般高齢者の主観的健康感をみると、町全域では「まあよい」「あまりよくない」「とてもよい」の順となり、すべての圏域で同様の傾向となっています。
- また、主観的健康感で「あまりよくない」と「よくない」の合計の地域差を圏域別にみると、沢内圏域で町全域より高くなっています。

図 4.44 主観的健康感

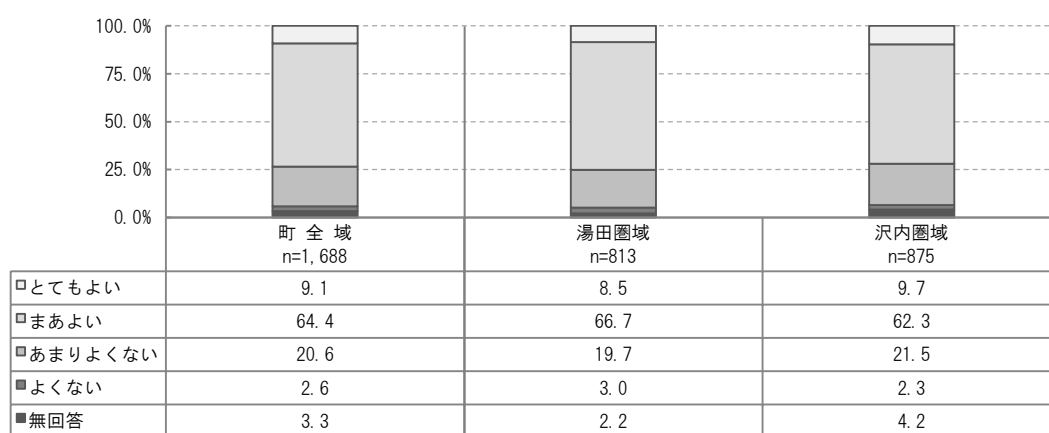
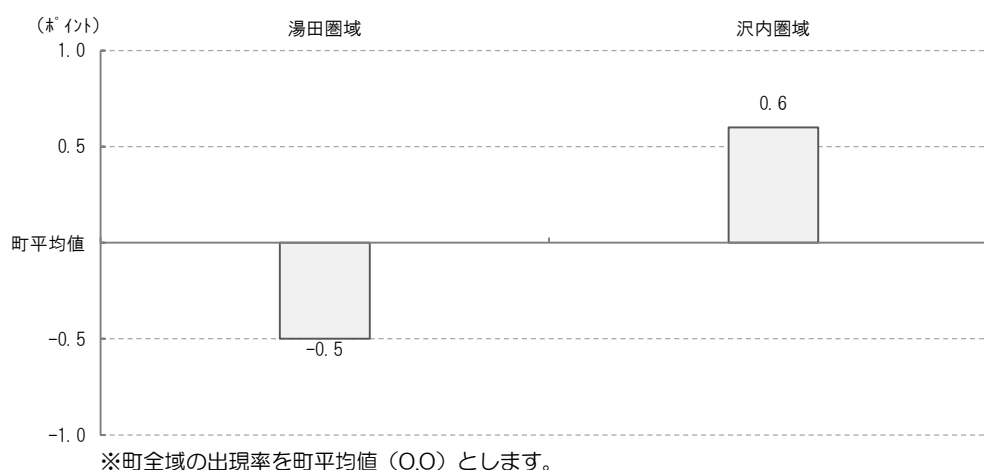


図 4.45 主観的健康感（「あまりよくない」＋「よくない」）の地域差



② 主観的幸福感

○一般高齢者において主観的幸福感の平均点数をみると、各圏域とも町全域と同程度となっています。

○一方、要支援者では、沢内圏域が町全域を上回っています。

図 4.46 主観的幸福感（平均点数）

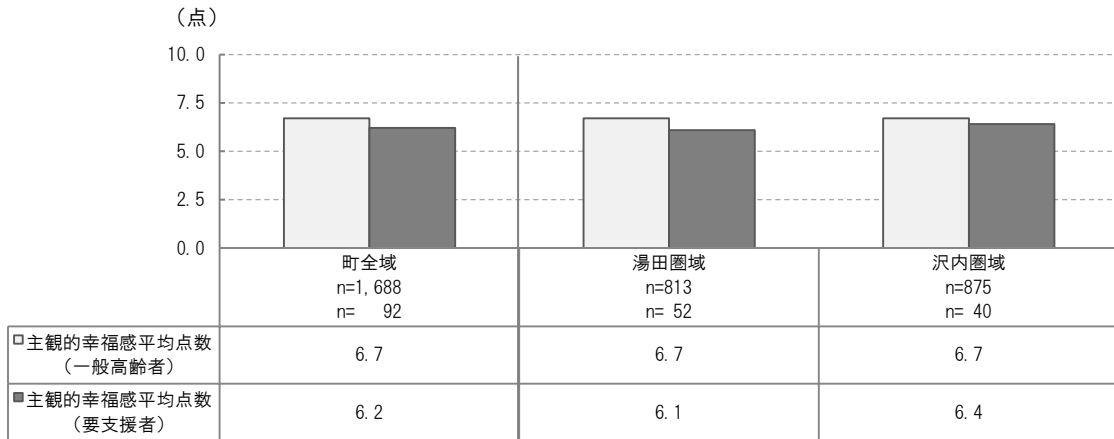
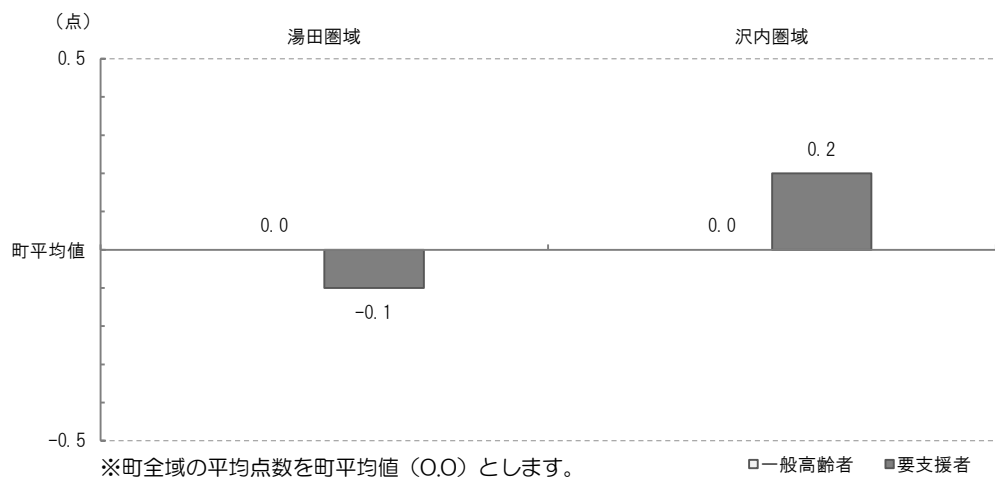


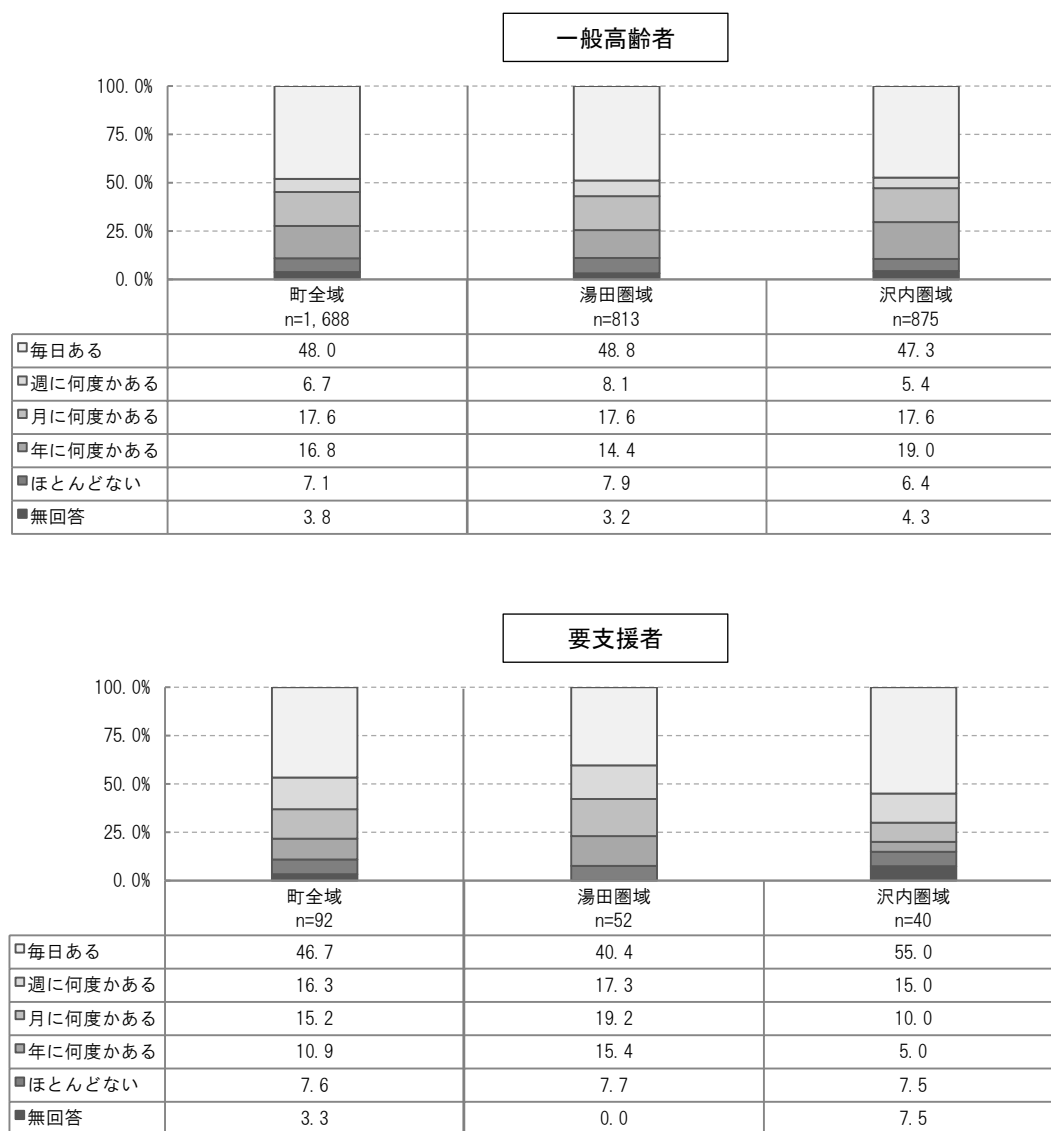
図 4.47 主観的幸福感の地域差



## (2) 誰かとともに食事をする頻度

- 一般高齢者が誰かとともに食事をする頻度をみると、町全域では「毎日ある」、「月に何度かある」、「年に何度かある」の順となっていますが、圏域別では異なっています。
- 圏域別にみると、町全域の上位3位を上回るのは、湯田圏域で「毎日ある」、沢内圏域で「年に何度かある」となっています。
- 要支援者をみると、町全域では「毎日ある」、「週に何度かある」、「月に何度かある」の順に高くなっていますが、圏域別では異なっています。
- 圏域別にみると、町全域の上位3位を上回るのは、湯田圏域で「月に何度かある」、「週に何度かある」、沢内圏域で「毎日ある」となっています。

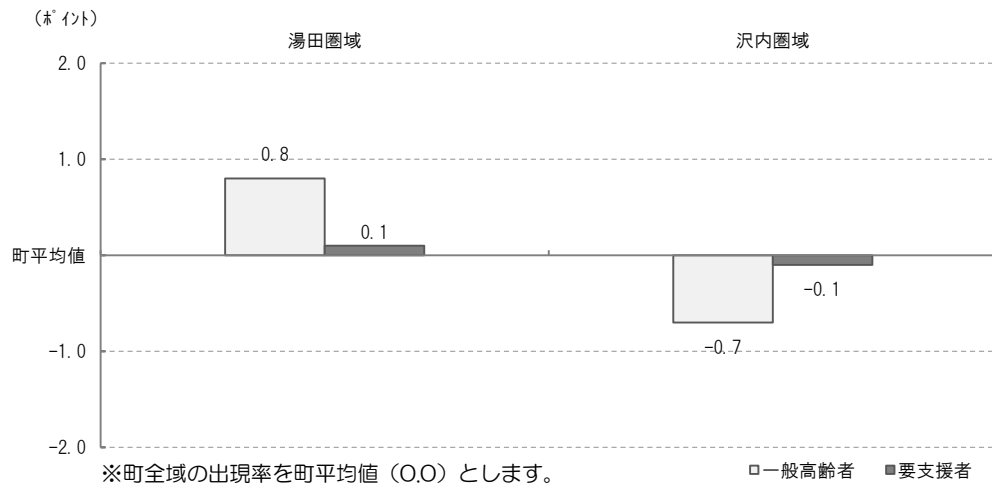
図 4.48 誰かとともに食事をする頻度



○誰かとともに食事をするのが「ほとんどない」一般高齢者は町全域で7.1%、地域差をみると湯田圏域で町平均値より高くなっています。

○一方、要支援者は町全域で7.6%となり、大きな地域差はありません。

図 4.49 誰かとともに食事をするのがほとんどない回答者の地域差



※問3(4)で、「ほとんどない」に回答した割合の差です。